

## 第6章 事前(S/W)調査への提言

### 1. コンタクト・ミッションの全般的評価

(1) 今次調査は、対希、初の開発調査案件であり、しかも希外相の訪日後、わずか2カ月余に調査団の派遣が実現したことは、右調査に対する我が方の真剣な姿勢を先方に印象づけるものであった。

事実、希側においてもスクラス国家経済省次官、並びにエクセンダリス外務省経済局長表敬の際、我が方の迅速な対応を高く評価する旨の発言がなされた。

(2) 今次協議を通じ、希側もJICA開調スキームについては一応の理解を示したものの、当初本件調査に直接関係しない諸事項についても要望越す場面がみられた。今後とも右スキームの性格、限界につき誤解が生じないように引き続き注意の必要がある。

### 2. 今後の基本方針

(1) 今次調査において看取された希側の積極的な姿勢にも鑑み、今回のコンタクト・ミッションの協議結果を踏まえ、1988年3月を目途に事前調査団(S/W)を派遣すべく前向きに対処する。

(2) 本格調査の基本方針については、既定の方針に従い、以下の諸点とする。

(イ) 対希、日本人観光客の誘致・増加に貢献し得る現実的な施策を提言するものとする。

(ロ) 上記(イ)のため、観光振興に係る関連制度や諸活動等への提言を含んだソフト面重視の調査とする。

(ハ) 1992年(次期5カ年計画の最終年)を目標年次として調査を行うことから、調査結果についても、ある程度の即効性を念頭に置く。

なお、本格調査の派遣時期については88年7月ごろを予定。

### 3. 事前(S/W)調査の留意事項

(1) 今次協議において、我が方が持ち帰り検討するとした希側 undertaking における、(イ)調査団の安全確保、(ロ)私有地及び制限区域への立入り許可、並びに(ハ)調査関連資料の日本への持出し許可、の各条項にかかわる先方からのコメントについては、S/Wの標準パターンを踏まえつつ、その取扱い方を前向きに検討する。

(2) 3月予定の事前調査団の派遣にあたっては、希側の undertaking に関する政府部内での調整の結果を見計りつつ、我が方のS/W(案)を在希大使館を通じ、事前に希側に送付し、検討方依頼しておく必要あり、先方からのコメント等につき、我が方対処方針をあらかじめ準備しておくことが、限られた時間の中で、より実のある協議を行うためにも肝要である。

## 第7章 本格調査への提言

### 1. 本格調査の目的

ギリシャにおける観光開発、施設整備状況等を踏まえ、問題点、制約条件を分析し、日本人観光客の増加に資する観光振興計画を策定、提言する。

また、ギリシャにおける観光インフラとともに、運営、組織に係る検討に調査の重点を置くものとする。

なお、調査対象地域は目的地としてのギリシャ、及び出発地としての日本とし、需要予測及び計画・提言の目標年次は1992年とする。

### 2. ギリシャ観光協力の今後の方向

#### (1) ギリシャの国際観光事情

1987年の年間来訪外客数は800万人で、うち90%がヨーロッパ各国からの来訪者となっている。4月～10月(7月及び8月がピーク)に90%弱が来訪し、11月及び12月並びに1月から3月の来訪外客は激減する。

ヨーロッパからの来訪者は、太陽と歴史を楽しむことを目的としており、1～2週間ゆっくり滞在するパターンが中心である。クルージングも時間がかかることは苦にしている。施設、娯楽、土産品、食事等に対する関心は、日本人に比べて薄く、必要最小限の水準さえ確保できれば満足している。歴史もギリシャ神話、古代ギリシャ史、ビザンチン帝国、十字軍遠征等はヨーロッパの歴史そのものであり、これらにかかわる知識は彼らの骨肉となっており、遺跡等を訪れて彼らの知識を追体験している趣きがある。ヨーロッパにおいてツアー・オペレーターは自らのチャーター便子会社、ホテルチェーンを有していることも多く、1社当たりの取扱旅客数も年間100万人を超える場合もあり、旅行先の選定も彼らの動向に左右されることが多い。ギリシャの観光市場の開発も、ギリシャ側の観光施設整備のための努力が前提であることは言うまでもないが、むしろイギリス、西独、スカンジビアナ諸国等の大手のツアー・オペレーターが積極的に推進している面もあることは否めないところである。

日本人観光客は1979年に池田満寿夫の“エーゲ海に捧ぐ”をきっかけとしたブームにより、対前年比110%増の13万人を記録したものの、その後は低迷し、1987年においても9万人の実績しかない。これは全来訪外客の1%強を占めるにすぎず、ギリシャ側が日本人観光客の増大のために多大の経費を費やしたり、特別の投資を行うことは、近い将来において、あまり期待することは現実的ではないことを意味するものである。

## (2) 日本の観光市場の動向

日本人の間では、ギリシャは古い歴史及びエーゲ海の青い海と白い家というイメージが強く、ヨーロッパで行ってみたい観光地としては、スイスにつぐ地位を占めている。しかし、ヨーロッパ旅行が増大しつつある中で、スペイン、イタリア等に比べて、ギリシャへの旅行の伸びは鈍いのが現状である。日本の旅行業者は、ギリシャの潜在的可能性を認識し、また、ギリシャ国内における諸経費の安さに魅力は感じているものの、旅行時間の長さ、史跡見学の便宜の悪さ、ホテルのサービス水準、食事の問題、言葉の問題、ガイドの水準、土産品の魅力の不足等さまざまな障害が多く、現実には旅行メニューを検討するときは、他のヨーロッパの観光地に比較して積極的になれない状況にある。他のヨーロッパの観光地と組み合わせる場合、これらの観光地と結ぶ交通網からギリシャが外れているのが現状であり、組み合わせに大変苦勞させられている。また、ギリシャのみの旅行メニューを組むほどの魅力に乏しく、現在のアテネ中心の2泊3日の旅行から脱皮するのは容易ではないと考えられる。

日本のホテル業者及びリゾート開発業者は、現在の日本人旅行者の規模と行動パターン、ギリシャの投資環境の劣悪さ（ドラクマの継続的下落、労働事情の悪さ、海外送金の困難等）からギリシャへの投資に関心を有していない（かなり以前に朝日旅行とビューホテルがギリシャへの投資を検討していたが、政変により挫折し、結局、両者が一緒になって朝日ビューホテルとしての投資をマレーシアに実施しており、現在はギリシャに対して、全く関心を有していない）。

日本航空は、南回り線の利用状況の悪化、収益の減少を踏まえて、本年4月から週3便を2便に減便している。すでに、この路線からはルフトハンザ、スイス航空等、他の航空会社は全て撤退しており、かつてのアラブ諸国の繁栄も昔日の面影はなく、また、ギリシャ・東京間に強い魅力を有する観光地も見当たらない現状では、南回り線の衰退は致し方ないものと思われる。むしろ、増大しつつある北回り線の日本航空を含む各国の航空路線におけるヨーロッパ各地の主要地点とギリシャとこれらの地点との間における便の接続の改善を図る方が重要である。オリンピック航空は南回り線においてDC10換算で週4便の権利を航空協定上有しているが、アメリカ、カナダ及びオーストラリアへの便を優先しており、東京乗り入れの早期実現は期待できない。しかし、オリンピック航空はヨーロッパ各地との間には多くの便を有しており、当面はヨーロッパ域内の便と北回り線との接続の改善に努めることが望まれる。

## (3) 観光協力の基本的方向

ギリシャ側は、日本との貿易不均衡の是正、昨今の日本人の海外旅行の増大、旅行者1人当たりの消費額の大きさ等に着目し、日本人旅行者の増大ひいては日本の観光投資の誘致を目的として日本に対する観光協力を要請してきている。前述したとおり、日本人旅行者は全来訪外客中1%強を占めるにすぎず、ギリシャ側において日本人旅行者のために多額な出費

を強いることはできない。また、日本からの観光投資の可能性は当面期待できないことも前述したとおりである。なお、ギリシャは海外経済協力基金の借款対象国となっていないことも、今後の観光協力を検討していくうえで留意する必要がある。

日本人旅行者をヨーロッパからの来訪外客が集中する夏に増大せしめることは、物理的にも限界があり、またヨーロッパの人々は半年ぐらい前に旅行計画をたてて旅行会社に申込みを行うのに対して、2～3カ月前にようやく旅行計画をたて始めるという日本の現状からは、ギリシャ側において日本人旅行者のために特別の配慮を期待することは著しく困難である。日本人の海外旅行は夏期以外にも年末・年始及び春休みの時期にもピークがある。ギリシャの既存の観光施設等の有効利用という観点からも、ギリシャのオフ・シーズンにおける日本人旅行者の増大に力を入れることが現実的と考えられる。また、日本人の海外旅行は周遊型が中心（特にヨーロッパ）であり、現在、大宗を占めているヨーロッパからの旅行者が滞在型が中心であるのと異なっていることから、その対応は、かなり異なるものであることを、ギリシャ側に認識してもらう必要がある。

現在、日本人のギリシャ滞在が2泊3日が大部分であるのは、周遊型が主流を占めている現状においては、早急には改善されるものではなく、滞在期間を延長するためには、長期的展望にたった地道な努力が必要である。

他方、新婚旅行、若い女性、学生等、時間と資金に比較的制約が少ない旅行者の間では、長期滞在型、クルージング等の人気も増大しつつあり、中・長期的には、これらの人々の誘致に努める必要がある。

なお、ヨーロッパの人々とは比較にならないにしても、ギリシャ神話、哲学、古代史等に強い関心を有する日本人旅行者も少なくないので、これらの人々に対する働きかけも見すごされてはならない。

日本側としては整合性のある具体的方策を、事の軽重、実施時期等を明確にしつつ、提案する必要がある。

#### (4) 具体的方策

##### 1) ギリシャ側

##### ① 国際航空

日本からギリシャの旅行を考える場合、旅行手段は専ら航空機となる。ギリシャの航空便は南回り便が減少しつつあり、北回り便との接続の改善を検討する必要があることは、前述したとおりである。

現在、ギリシャに乗り入れている航空会社は47社あり、ギリシャと日本の間の航空輸送の改善については、さまざまなケースが考えられ、今後の重要な検討課題である。特に、ギリシャのナショナル・フラッグ・キャリアであるオリンピック航空の動向が、今

後の改善の鍵を握っていることは言うまでもないことである。

また、オリンピック航空の機内サービス等について、必ずしも評価が高くないことに鑑み、その改善に努めることも必要である。

将来においては、現在、イギリス、西独、フランス、スカンディナビア諸国から大いに利用されているチャーター便についても、これらの諸国のツア・オペレーター、チャーター便会社等の協力を得て、日本・ギリシャ間の、より便利で、低廉な輸送の可能性も検討されて、しかるべきと考えられる。

## ② 他の観光地との組み合わせ

日本人のヨーロッパ旅行が周遊型が中心であることは前述したところであるが、ギリシャと何処と組み合わせたら旅行者にとって便利かつ魅力的であるかを検討する必要がある。この場合、他のヨーロッパの観光地とギリシャとの観光地の内容の違いを十分に検討する必要がある。また、トルコ、エジプトとの組み合わせも人気が出てきつつあり、今後、これらの地域との組み合わせの可能性について十分検討する必要がある。

なお、近い将来、オーストリア及びトルコと日本の間の航空便の開設も可能性があり、この件についても留意する必要がある。

## ③ 国内輸送の改善

現在、日本人のギリシャの乗り入れはアテネが中心となっている。この場合、アテネからの国内輸送は、国内航空輸送、道路、鉄道、フェリー等が考えられる。現在は、これらの輸送手段が、どの程度、利用可能か明らかになっていない。

今後、ギリシャにおける日本人旅行者の滞在及び活動範囲を拡大するためには、これらの輸送にかかわる正確な情報（輸送網、旅行時間、運航回数、運航サービス、料金等）の提供に努めるとともに、需要動向に応じた柔軟な対応が望まれる。

## ④ 通信等にかかわる情報の提供

通信、電力、上下水道、医療、安全、金融等にかかわる情報は必要不可欠なものである。日本人旅行者は安全及び衛生については特に神経質であることに鑑み、正確な情報の提供に努めるとともに、旅行者の不安の除去に努める必要がある。

## ⑤ 宿泊施設の改善

ギリシャの宿泊料金は、他のヨーロッパの観光地に比較して低廉である。しかし、ホテル等の分類の基準が明確でなく、他のヨーロッパの観光地に比較して施設、サービス等が不十分であるという批判もある。日本人旅行者の不満を把握して、可能な限り改善に努める必要がある。特に日本人旅行者にとってバスタブがないのは、かなり困惑させられる条件の一つである。

## ⑥ ショッピングの改善

日本人旅行者がギリシャであまり買物をしないのは、現在のギリシャ産品が日本人にとってあまり魅力がないのと、せっかく安く買えるヨーロッパのブランド商品が容易に入手できないためである。免税店の整備を急ぐとともに、魅力のある土産品の発掘・改良に努め、標準価格を明らかにする必要がある。場合によっては観光局直営店があってもよいと思われる。ヨーロッパは長年にわたって日本人観光客にヨーロッパのブランド品を販売してきた。イギリス屋（JALの子会社）、ハノーバー屋、三越等の土産物店があり、これらの会社の協力・助言を得る努力をすることも一方策かと思われる。商店の営業時間の延長、休日の開店等も検討する必要がある。

#### ⑦ 食事の改善

伝統的なギリシャ料理はオリーブ油、香料、調理法等で、日本人の口には概して合わないものが多い。しかし、魚貝類は日本人の好む食物であり、調理法を日本人好み（しょう油の使用等）に改良すれば、状況は異なってくると思われる。

現在、一部の旅行業者が調理の指導をしている模様であるが、当分の間、短期専門家の派遣を要請し、調理方法の指導を受けるのも一方策かと思われる。

#### ⑧ サービスの改善

現在の空港の通関等の手続き、所持金の申告制度は便利とはいえず、大幅な改善の必要がある。遺跡、博物館等の開場時間も短すぎて、観光客の便宜に合っていない。また、勝手にストライキを打って旅行者に迷惑をかけるのは感心しない。

遺跡において入場料と引き換えに、簡単なパンフレットを渡すことも検討する必要がある（日本語の方がよいが、英語でも致し方ない）。ガイドにも、詳しく故事来歴を説明するよりは、もっとポイントをしばって観光客の関心に合わせて案内する必要がある（日本語ガイドの数及び能力、ガイドの内容も再検討の要あり）。イギリスのナショナル・トラスト、ナショナル・ヘリテージの仕組みのように近隣の国に良いお手本があり、これらに学ぶ努力をしなければならない。楽しい音楽と陽気なダンスは最大の観光資源の一つかと思われるが、もっと手軽に観光客が楽しめるよう便宜を図る必要がある。

#### ⑨ 演出の工夫

遺跡は、ただ、がれきの山、博物館は膨大な出展品を並べているだけという印象が強い。遺跡については、往年の姿をほうふつとさせるような案内図を設置するなり、ローマのポロ・ロマーナのように一部修復するなりしないと関心を引かない。博物館もソクラテスの間、アレキサンダー大帝の間、アガメムノンの間というような演出をしないと、ただ歩き疲れるだけに終わってしまう。また、劇場の遺跡等では、音楽やダンスをしてみせても、よいのではないかと思われる。遺跡めぐりについても、ドイツのロマンテック・シュトラッセのようなネーミングと演出の工夫があると、観光客にとって魅力的なものとなる。

#### ⑩ ファムトリップの活用

旅行者等に対するファミトリップは慢然と呼ぶだけでは、彼らに無料の旅行を楽しむさせるだけに終わってしまう。ギリシャ側としては、これまで指摘してきた諸事項について工夫をこらし、旅行者が興味を示すようなメニューを用意してファミトリップを実施する必要がある。よく旅行業界誌の編集者を呼んで、大きく取り上げてもらって喜んでいるケースが見受けられるが、日本において、これらの専門誌の影響は著しく小さいので、あまり利口なやり方とは思えない。女性週刊誌の編集者、影響力のあるコラムニスト等に焦点をしばった方が効果は大きい。

ヨーロッパにおいて営業活動を行っている日本のホテル、旅行者の支店等はギリシャを担当地域としながらも訪希していないことが多いことに鑑み、これらの人々を対象としたファミトリップも検討に値すると思われる。

ECの日本への共同プロモーションに際しては、ギリシャの特色を明確にしないと、日本観光の市場関係者に対するギリシャの印象は薄いものとなる。

ギリシャのクルージングを日本市場に売り込みたい意向が強いが、テストケースとして、5月の連休はO.L.を主たる顧客とし、年末年始には家族旅行を主たる顧客にし、影響力のあるコラムニストを招待してツアーメニューを売り込むことも考えられる。

#### ⑪ 新婚旅行の招待

日本において新婚旅行は、3月から5月及び9月から11月が主要なシーズンとなっている。1988年には71万組が結婚する予定となっており、その中の3分の1にあたる23万組が3月から5月に結婚する。彼らの90%が海外旅行に行きたいと考えている。

地中海クラブは日本の新婚旅行者に人気がある。しかし、日本で調べたところでは、日本の地中海クラブとヨーロッパの地中海クラブとの間の連絡は緊密ではない。もし、地中海クラブ内部における連絡が緊密なものとなればギリシャにある7つのバカンス村への日本の新婚旅行者の訪問は増大するものと思われる。ただし、新婚旅行者においては土産物を買って帰ることが重要なので、その面の便宜を図る必要がある（なお、オーストラリアが郷ひろみ夫妻の新婚旅行を誘致したことにより、オーストラリアがハワイを抜いて新婚旅行先として最も人気のあるところとなったことも参考になるものと思われる）。

#### ⑫ インセンティブツアーの誘致

ヨーロッパ在住の日本人は7万人、ヨーロッパの日系企業の雇用者は7万人となっている。

これら日系企業の従業員なり顧客に対するインセンティブツアーを日本にもってくるのは、次の二つの理由で難しいのが現状である。

一つは、初めてのツアーは日本でよいが、2回目からは日本以外に行きたいと希望する者が多いためである。

二つめは、昨今の円高により、日系企業としてヨーロッパで独立採算で活動しなければならず、日本より安い行き先を好むためである。ヨーロッパの日系企業リストは、各地にある日本人商工会議所に行けば入手できるはずである。ギリシャ側から、これらの日系企業に魅力あるメニューを提示することによって、より多くの人々をインセンティブツアーでギリシャに誘致することが可能になる。

ロンドンには日本人の旅行を取り扱っている19社からなる火曜会という組織があって、インセンティブツアーへの対応に努めており、すでにオーストリー等からのコンタクトがあったと聞いている。

また、イギリス及びドイツにおいては、顧客に対するインセンティブツアーに要する経費に対する税制上の優遇措置が講じられている。

### ⑬ 日本企業の協力要請

今年からエジプト政府はNECに電気製品を販売することを認めるかわりに、NECが年間5,000人の日本人旅行者をエジプトに送ることとなった。NECはクレオパトラ作戦と名づけて実施に努めているが、先例としてGMが自動車を売るかわりに、年間2万人の米国旅行者を送るという約束がある。この例はギリシャ観光振興においても大いに参考になるものと思われる。

## 2) 日本側

### ① 専門家派遣

ギリシャとの観光協力を推進するうえで、前述したように、各分野において、必要に応じて短期の専門家を派遣することが有効な場合が多いと思われる。

長期専門家は所属先企業等が適切な者を手放したがないので、例外的になるものと思われる。基本的にはJICA専門家として派遣することとなるが、場合によっては民間ベースでの派遣も考えられる。

### ② 研修員の受入れ

観光関係の研修員はJICAの観光コースにおいて受入れを促進する必要がある。場合によっては民間ベースの受入れも考えられる。

### ③ フォーラムの活用

運輸省はテンミリオンプログラムの推進のために国際観光開発研究センターの中にフォーラムを設置している。このフォーラムにおいては、方面別の旅行の増大にも努めることになっており、ギリシャ側から、日本市場への観光施設等の推進について、フォーラムの場において日本の関係者の助力を求めることが可能である。



また、月に2回発行され、関係者に配付されている“フォーラムニュース”に自らの施策についての広報を行うこともできる（すでにネパールについての広報がなされている）。

#### ④ 青年の船の訪希

来年度、ギリシャへの青年の船の派遣が検討されている模様である。

ギリシャ側として、日本の若者たちにギリシャの観光宣伝を行う絶好の機会であり、最大限の活用を図ることが望まれる。

### 3. 本格調査にあたっての留意事項

#### (1) 調査体制

本件調査は、ギリシャを訪れる日本人観光客の増加を図るための振興策策定に関する協力であり、日本国内における市場開拓、及び受け手となるギリシャ側が行う改善との二つから成っている。そのため、空港、道路、鉄道、ホテル等の施設面の改善、及び行政、遺跡展示、オーガナイゼーション等のソフト面の改善との両方の調査研究が要求される。

したがって本調査の実施にあたっては、下記の分野の専門家が必要とされる。

1. 総括
2. 観光振興計画
3. 観光施設計画
4. 需要予測
5. 市場調査
6. 広報・企画
7. 交通計画
8. 財務・事業計画
9. 経済・社会評価

コンサルタントの選定にあたっては、上記に関する十分な実務経験を有する人の中から幅広く人材を集めることができるよう配慮することが重要である。

#### (2) 留意事項

本件調査は、世界的な観光地である「ギリシャ」において、いかに日本人観光客を増加させるかということが命題であり、そのために必要とされる方策を提言することである。

事前調査を通じて判明したことの一つに、受入れ側となるギリシャ側においても、日本人が満足していないことは知らないわけではなく、改善が必要であるとは感じていることがあ

る。しかし、実際の面において、どのような点を改善すればよいかということになると、具体的なイメージを持っていないのが現状である。

したがって、本格調査による改善案、振興策の提案は：

- a) 具体的な例をあげて説明すること
- b) 実際的な立場に立って提案すること
- c) 即効性のあるアイデアを提供すること

が必要とされる。

ギリシャを訪れる日本人観光客は全体のせいぜい1%強(85,075人/7,339,015人, 1986年(1.16%))であるため、特に日本人だけのために大きな投資を必要とするような提案は不相当と考えられる。

### (3) 具体的調査事項

#### a) 観光資源に関する調査

- ・現在日本人観光客の訪れる観光地及びその場所における観光資源の現況及び潜在開発可能性の分析と評価、日本人観光客を引きつけている理由。

遺跡、博物館、海、町並、山、その他の施設等について、その現況の問題点、改善点等のスタディを実施する。

#### b) 観光振興計画調査

- ・観光振興のための行政面でのバックアップ。基礎的社会インフラ、交通機関、安全、災害対策等、観光に関連する社会開発のための投資計画、また民間投資、外国資本の投資等を誘導するための法制、社会基盤の整備、助成策等の調査を行う。

#### c) 観光施設計画調査

- ・ホテル、リゾート、遺跡等、直接観光に関する施設及び観光関連施設としての店舗、銀行、飲食店、トラベルエージェント、郵便局、警察等の公共施設、それらを支える交通、上下水、電力、通信等のインフラとしての基盤整備等を日本人観光客とのかかわりにおいて調査、検討する。

#### d) 需要予測

- ・現状の入込客、日本人入込客及び日本人観光客のシェア、特性の分析及び予測を行う。日本人にとっての魅力、交通、インフラ、施設、安全性、衛生、お土産、買物等の総合的評価分析を行い、入込目標のフレームを設定する。

#### e) 市場調査及び分析

- ・ギリシャに対する量的・質的観光需要を予測するため、特に日本人観光客については、観光パターン(目的、旅行形態、旅行期間、旅行シーズン、支出パターン)等につき市場調査、動向分析を実施し、需要予測の精度向上を図る。

動向分析にあたっては、日本人観光客、ツアーオペレーター等を対象にアンケート等による実態調査を実施する。

アンケートのサンプルの選び方は、

- 1) 国内においては、ギリシャへのツアーを行っているエージェントを通じ、ギリシャ旅行経験者及び未経験を対象にメールインタビューを行う。
- 2) 現地（ギリシャ）においては、ツアーオペレーターを通じ、観光客にインタビューないし、アンケート調査を行う（ホテル又はクルーズ船中にて行う）。
- 3) ヨーロッパ在住の日本人観光客に対するアンケートは、現地において行う。
- 4) 日本のトラベルエージェント及び現地のツアーオペレーターほか観光関連業者に対するインタビューないし、アンケート調査。

等を検討する。

- 将来需要に影響を及ぼす内的・外的要因検討
  - ・観光パターンの変化に関する調査・分析
  - ・観光実績の分析及び変動要因の抽出とその影響度に関する検討
  - ・e)の動向実態調査に基づき目的地選定要因を分析し、日本人の観光におけるギリシャ観光の位置づけ及びヨーロッパ/地中海観光におけるギリシャの位置づけ等を計量的、定量的に分析する。

日本人観光客の観光活動に対する制約条件及び問題点の抽出、分析を含むものとする。

f) 広報・企画計画

- 日本人観光客の増加のための宣伝広報活動の調査、GNTO、航空会社、船舶会社、鉄道、バス、ホテル、トラベルエージェント等の行っている広報、イベント、企画、販売促進策等の現況、予算、実施体制、問題点と改善策に関する調査。

g) 交通計画調査

- 観光を支える最も大きなインフラの一つとしての交通計画、日本からギリシャへ、またギリシャ国内の観光地へのアクセスの可能性、改善のための投資計画、観光客の増加による拡充計画等について調査を行う。

h) 財務事業計画

- 日本人観光客の観光活動特性及び改善計画等をベースに、財務事業計画を検討し、日本人観光客誘致のための投資の可能性の検討を行う。

i) 経済社会評価

- 日本人観光客の増加が与えるインパクトに関する分析評価を行う。

関連産業の振興、雇用の増大、人口の移動、地域開発、観光収入、外貨収入等に対する影響の調査を行う。

j) その他

- 日本人観光客にとって、海外旅行の楽しみの一つである買物についての調査、種類、魅力、価格、質、デザイン、ディスプレイ、また信頼度等の評価も調査に含める。
- 日本人観光客の多い秋から初春にかけての時期は、イベント、アトラクションの少ない時期でもあるので、観光客にとっての魅力づくりの可能性を調査する。

(4) 日本人旅行者増加に資する観光振興計画策定

a) 計画目標の設定

- 需要予測に基づく、入込目標の設定。

b) 日本人観光客誘致条件の設定

- 調査の結果判明した、ギリシャへの日本人観光の制約条件、問題点及び需要変動に係る内的・外的要因に対応する誘致条件を検討する。

c) 振興のための方策・戦略の検討

次のような項目に留意のうえ、観光振興のための具体方策・戦略を検討する。

- 国際航空路線
- 出入国手続き
- 日本人への観光宣伝・企画
- 観光資源の活用
- 観光施設
- 希国内交通手段
- 人的サービス
- 安全性
- 観光情報
- ショッピング

d) 実行計画の策定

- 実施方法
- 実施体制
- 資金
- 要員
- 実施工程
- 他の計画との調整

e) 以上の検討、計画結果を踏まえた総合的提言



付 属 資 料



付属資料 1. ギリシャ観光振興計画事前調査（コンタクトミッション）対処方針

S62.11.9 JICA

項 目	対 処 方 針	備 考
1. C/Mの目的及び今後の予定 (1) 目的	<p>(1) 次の通り整理し、説明する。            ①先方政府の要請内容及び意向の確認。            ②開発調査システムの説明。            ③調査方針及び内容の協議。            (観光事業現況の把握、既存調査及び資料の収集、現地踏査を含む。)            ④先方受け入れ体制の確認。            (先方政府の実施すべき事項、先方C/P実施機関、STEERING COMMITTEEの設置等を含む。)</p> <p>(2) ①我が方「開発調査事業」の説明を行う。            ②概略の予定について確認する。            S63.3 S/W協議            S63.7 本格調査開始</p>	<p>①③④について DISCUSSION PAPER を準備する。            ②については J I C A 概要及び開発調査説明資料を準備。            マレーシア地域総合開発調査のイニシアティブを参考として活用する。</p>
2. 要請内容及び意向の確認 (1) 全般 (不明、T/Rなし) (2) ホテル建設を含むハード・インフラ整備にかかる協力要請について	<p>(1) 我が方の本件調査協力にかかる考え方、開発調査SCHEMEを説明する。合意事項についてはC/Mがミニッツに署名、確認する。</p> <p>(2) ①先方要請内容中に右が確認されれば、その考え方及び必要性等につき追加説明を求める。            ②我が方の認識（施設及びハード基盤については相当程度整備済みであり、ソフト面が重要。）を説明する。            ③開発調査の実施し得る範囲（私企業が実施主体となるホテル建設の投資前F/S調査は不可）を説明する。</p>	
3. 本格調査方針及び内容の協議について (1) 本格調査の目的 (2) 本格調査の村象地域 (3) 目標年次	<p>(1) わが方考え方として、「STUDY ON TOURISM PROMOTION: WITH SPECIAL REFERENCE TO MEASURES TO INCREASE JAPANESE TOURIST TO GREECE」を基調に、日本人観光客の誘致・増加に貢献し得る現実的な施策を提言するものとする。            このため観光振興にかかる関連制度や諸活動等への提言を含むソフト面を重視する調査とする。</p> <p>(2) ①目的地としてのギリシャ国内（対象地域を絞り込む必要が有れば特定）            ②目的地としての日本国内（マーケット調査、観光客動向調査等のため）            なお、ギリシャ観光に関連すると思われるその他の地域（旅行経路上の乗継ぎ地、ツアーポートラム上の組合せ国等）については調査の項目としての扱いにとどめる。</p> <p>(3) 5年程度の短期計画とする。 1993/94年</p>	<p>実査の方法を格付            3-がコンダの活用等</p>



(4) 本格調査の内容と項目

- (4) ①上記3.(1)及び(2)との関連協議する。  
②今回の日本側レビュー結果に基づき見解(観光促進に貢献すると考えられる点や阻害要因と考えられる点等)につき説明を加える。

a Merit

- イ) 場一料金
- ロ) 冬期入込み増の可能性
- ハ) 若い女性層を中心に滞在需要(スイスに次いで2位の人気)
- ニ) グラランド・コストが安い

b Demerit

- イ) 日本が遠く、Accessに時間がかかる
- ロ) 日本市場へのPRが不十分
- ハ) アテネからの国内輸送手段が不十分
- ニ) 夏期のホテル手配が困難
- ホ) 土産の能力不足
- ヘ) 日本語ガイドの不足

(4) 調査期間

(5) 報告書

4. 先方受け入れ体制の確認  
(1) 先方の実施すべき事項  
(2) 先方C/P実施機関

5. C/M両員の各担当分野の調査内容について

- (1) 協力政策
- (2) 地域政策
- (3) 観光政策
- (4) 観光振興計画
- (5) 需要予測

6. C/MのMINUTES OF MEETING (協議議事録)について

7. C/Mの報告書作成

英文による説明を準備する。

資料の作成。

リストの作成。

案を準備する。

- (4) 年間波動を見る必要からもミニマム1年とする。

- (5) イ) インセンション・レポート
- ロ) インテリム・レポート
- ハ) D/Fレポート
- ニ) ファイナル・レポート

- (1) 通常のS/Wの"UNDERTAKINGS"を例として協議する。
- (2) 先方政府全体行政機構及び観光行政機構の中で確認する。  
関連機関の役割と機能(責任と権限)に関し資料・情報を収集する。  
併せてSTEERING COMMITTEE等の設置とその役割などにつきても協議する。

5. 質問事項及び収集資料に付き整理する。

- (1)

6. 合意された事項及び双方の主張事項などにつき作成、署名する。

7. 報告書の目次案及担当者分担により作成する。

MINUTES OF THE MEETING  
OF  
THE STUDY OF TOURISM PROMOTION  
WITH SPECIAL REFERENCE TO THE MEASURES  
TO INCREASE JAPANESE TOURISTS TO GREECE

BETWEEN

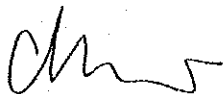
OFFICIALS OF THE GOVERNMENT OF GREECE

AND

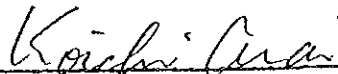
THE JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY

ATHENS, GREECE.

17TH NOVEMBER, 1987.



Mr. Constantinos KYRIAZIS,  
President,  
Greek National Tourism Organization.



Mr. Koichi ARAI,  
Leader of the Contact Mission,  
The Japan International  
Cooperation Agency.

MINUTES OF THE MEETING

The Japanese Contact Mission (hereinafter referred to as "the Mission") sent by the Japan International Cooperation Agency, headed by Mr. K. Arai, visited Greece from 12th to 17th November, 1987, for the purpose of holding discussions on the Study of Tourism Promotion, with special reference to the measures to increase Japanese tourists to Greece (hereinafter referred to as "the study").

The Mission had a series of discussions on the Discussion Paper (Annex 1), prepared by the Mission, with representatives of the Greek National Tourism Organization and other organizations concerned, and carried out a field survey in the study area.

Through these discussions, both sides have confirmed items of the discussions, as attached in Annex 2.

Attendants' Lists of both sides are attached in Annex 3.



DEVELOPMENT SURVEY PROJECT  
JAPANESE TECHNICAL COOPERATION PROGRAM

DISCUSSION PAPER

ON

STUDY ON TOURISM PROMOTION

:WITH SPECIAL REFERENCE TO THE MEASURES  
TO INCREASE JAPANESE TOURIST TO GREECE

This paper is prepared for the discussion on the above study between the JICA Contact Mission and the representative of the Government of Greece.

November 1987

JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY  
(JICA)

*D*

*JICA*

## I. Purpose of the Contact Mission

1. To ask the Government of Greece to explain in detail its request on the technical cooperation for the study on tourism promotion.
  2. To explain the "Development Survey" of Japanese technical cooperation program and functions of the Japan International Cooperation Agency (JICA).
  3. To discuss the Scope of Work on the Study of tourism promotion, and
  4. To discuss and confirm the implementing arrangement for the Study.
- The agreed subjects and items shall be recorded in the Minutes of Meeting which will be signed by the leader of the Contact Mission and the representative of the Government of Greece.

## II. Tentative Scope of Work

The Contact Mission could suggest the following Scope of Work of the Study for the discussion with the representatives of the Government of Greece.

The Scope of Work suggested here is of tentative nature since it is prepared with the limited information obtained through the diplomatic dialogue between the two Governments and based upon the preliminary analysis on the Japanese side.

The Scope of Work is, therefore, expected to be finalized and confirmed between both sides through discussion at the time of the coming preliminary survey prior to the actual commencement of the full-scale Study.

### 1. Title of the Study

The Study shall be named "the Study on Tourism Promotion: with special reference to the measures to increase Japanese tourists to Greece".

## 2. Objective of the Study

The objective of the Study is to make analysis of the existing constraints and problems, and to make recommendations for possible measures to increase Japanese tourists to Greece.

Special emphasis will be placed on mainly the aspect of administration and institution as well as the aspect of infrastructure in the tourism sector in Greece.

## 3. Scope of the Study

### 3.1 Study Area

The Study shall cover the area specified in Greece as the destination and the area in Japan as the origin of tourists.

### 3.2 Target Year

The year within five (5) years shall be defined as the target year.

### 3.3 Study Schedule

The Study shall take at least one (1) year to prepare the final report.

### 3.4 Study Items

The Study shall cover the items described below.

#### (1) Analysis of Existing Conditions

- a) Review of the previous studies with direct relevancy to Japanese Tourists
- b) Investigation of present conditions (Policy, Plans, Programs, Projects, Resources, Infrastructure and Institution)
- c) Identification of constraints and problems.

#### (2) Market Research and Demand Forecast for Japanese Market

- a) Evaluation of Resources and Infrastructure
- b) Market Research and Analysis
- c) Assessment of internal / external factors affecting the future demand
- d) Forecast of tourism demand

(3) Formulation of Plan for Tourism Promotion to Increase Japanese Tourists

- a) Establishment of goals and objectives
- b) Preparation of criteria to attract Japanese Tourists
- c) Establishment of Promotion Strategy and Tactics
- d) Formulation of implementation programs

(4) Recommendations

4. Reports

The Study shall prepare and submit the following reports:

- (1) Inception Report : at the commencement of the Study
- (2) Progress / Interim Report : in the course of the Study
- (3) Draft Final Report : at the final stage of the Study
- (4) Final Report : at the end of the Study period.

Relevant comments and opinions of the Greek side on the Draft Final Report shall be incorporated in the Final Report.

III. Undertakings of Both sides

1. Undertakings of the Government of Greece

To facilitate smooth conduct of the Study, the Government of Greece shall be requested to take the following measures :

- (1) To secure the safety of the Study Team
- (2) To permit the members of the Japanese Study Team to enter, leave and sojourn in Greece for the duration of their assignment therein, and exempt them from alien registration requirement and consular fees.
- (3) To exempt the members of the Japanese Study Team from taxes, duties and other charges on equipment, machinery and other materials brought into Greece for the implementation of the Study.

- (4) To exempt the members of the Japanese Study Team from income tax and other charges of any kind imposed on or in connection with any emolument or allowance paid to the members of the Japanese Study Team for their services in connection with the implementation of the Study.
- (5) To provide necessary facilities to the Japanese Study Team for the remittance as well as utilization of the funds introduced into Greece from Japan in connection with the implementation of the Study
- (6) To secure permission for entry into private properties and restricted areas for the conduct of the Study
- (7) To secure permission for the Japanese Study Team to take all data and documents (including photographs) to Japan, as necessary for analysis during the implementation of the Study
- (8) To provide medical services as needed. Its expenses will be chargeable on the members of the Japanese Study Team.
- (9) The Government of Greece shall bear claims, if any arises against the members of the Japanese Study Team resulting from, occurring in the course of, or otherwise connected with the discharge of their duties in the implementation of the Study, except when such claims arise from gross negligence or willful misconduct on the part of the members of the Japanese Study Team.
- (10) ----- shall act as counterpart agency to the Japanese Study Team under the coordination of the Steering Committee for the smooth implementation of the Study.
- (11) The Government of Greece shall, at its own expense, provide the Japanese Study Team with the following, in cooperation with other organizations concerned:



- a) Available data and information related to the Study
- b) Counterpart personnel
- c) Suitable office space with necessary office equipment
- d) Credential or identification cards

## 2. Undertakings of JICA

For the implementation of the Study, JICA shall take following measures:

- (1) To dispatch, at its own expense, the Study Team to Greece
- (2) To pursue technology transfer to the Greek counterpart personnel in the course of the Study
- (3) To provide equipment and machinery for the implementation of the Study, which will remain the property of JICA unless otherwise agreed upon.

## 3. Mutual consultation

JICA and the Government of Greece shall consult with each other in respect of any matter which may arise from or in connection with the Study.

## IV. Study Organization

1. For the provision of advisory function, JICA shall organize an Advisory Committee which consists of the competent officials of the Government of Japan, while the Greek side shall be requested to organize a Steering / Consultative Committee of supervisory, advisory and / or coordinative functions.

A clear definition of the function of and broad participation to the Committee shall be recommended.

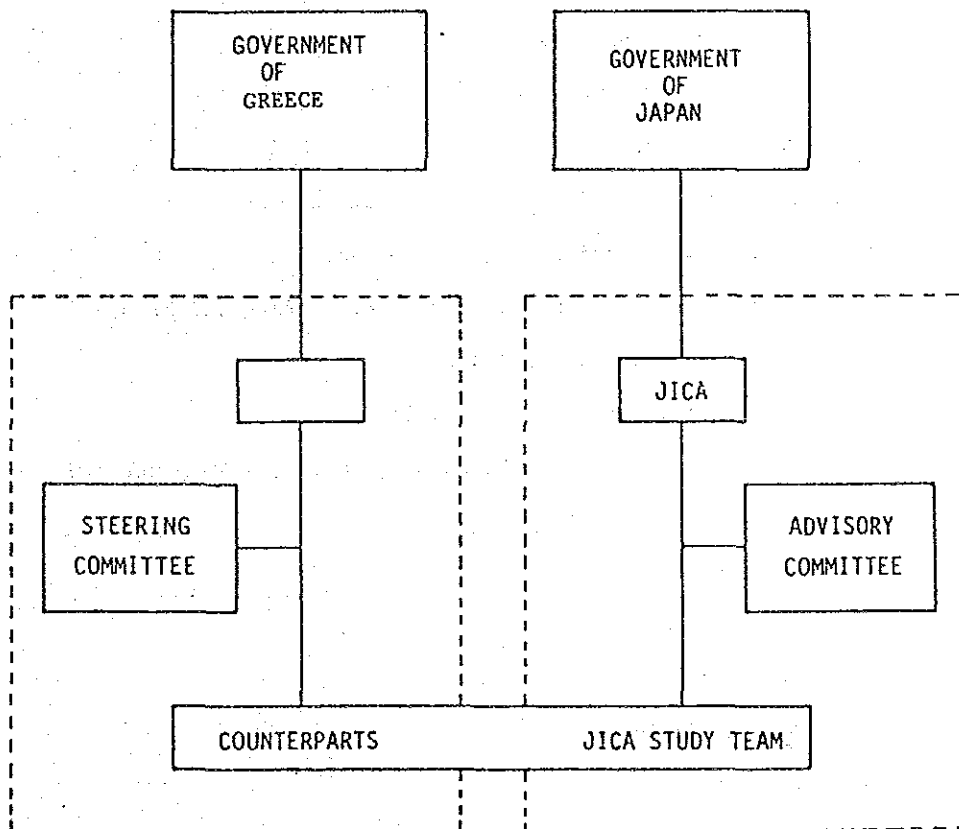
2. Study Team

For the implementation of the Study, JICA shall organize the Japanese Study Team which consists of Japanese experts, professionals and / or engineers while the Greek side shall be requested to organize the Greek Study Team as the counterpart.

Both teams are expected to work in close collaboration under the function of the Committee above.

3 Study Organization

The organization of the Study might be illustrated as below.



V. Information requested by the Contact Mission

The Contact Mission would request the Government of Greece to provide the following information preferably in English.

1. Socio-economic condition
  - a) Economic Indicator
  - b) Development Plan (including Regional Development)
  - c) Laws and Regulation concerning Investment
  - d) Laws and Regulation concerning Employment and Work Permit
  - e) Regulation and Institution for Development Promotion
2. Present Conditions of Infrastructure
  - a) Transportation
  - b) Electricity
  - c) Gas
  - d) Water Supply and Drainage
  - e) Post and Telecommunication
  - f) Medical Service
3. Present Condition of Tourism Development
  - a) Time-series Statistics (5 to 10 years)
  - b) Tourism Development / Promotion Plan (Past and Present)
  - c) Tourist Information and Maps
  - d) Promotional Campaign and Publicity
  - e) Accomodation, Hotels, Bungalows, Motels, Apartments and Rented Rooms
  - f) Tour operator
  - g) Cruising Company
  - h) Rent-A-Car
  - i) Tourist Police
4. Environment issue
  - a) Preservation of Historic Relics
  - b) Anti-Pollution Measures
5. Trade and Investment Statistics in relation with Japan

**CONFIRMED ITEMS OF THE DISCUSSIONS**

20

LCA

I. Amended Items

Both sides have agreed to amend certain items, as follows:

1. Tentative Scope of Work:

(1) 3.1 Study Area

The study shall cover the areas specified in Greece as the destinations and the area in Japan as the origin of the tourists.

(2) 3.2 Target Year

The year 1992 is defined as the target year for the forecast of the future demand and recommendations.

(3) 4. Reports.

(2) Interim Report : in the course of the study

2. Undertakings by both sides:

(1) In terms of (10), the Greek National Tourism Organization is confirmed as the counterpart agency.

3. Study Organization.

(1) The Greek side shall organize an Advisory Committee.

(2) The illustration shall be revised in accordance with the above amendment.

II. Comments made by the Greek side

1. Undertakings by the Government of Greece.

(1) The Greek side stated that, "undertakings by the Government of Greece" should be confirmed with the competent organizations concerned in the Government of Greece. The Greek side, therefore, shall obtain the approval from the organizations concerned prior to the arrival of the preliminary study team.

(CA)  
./..2

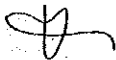
2. In terms of III,1. (1), the Greek side stated that the phrase shall read as follows:

"To inform the members of the study team of any existing risks in the study area and to take any measures deemed necessary to secure the safety of the study team". In addition, this phrase shall be placed under the item (5) and the order shall be changed accordingly.

3. In terms of II.1.(6) and (7), the Greek side stated that the phrase of "taking into account the usual security measures and public order restrictions" shall be added respectively.
4. The Japanese side stated that the comments in Nos. 2 and 3 above, made by the Greek side shall be conveyed to the competent organizations concerned in the Government of Japan and that the conclusion shall be informed to the Greek side prior to the arrival of the preliminary study team.

### III. Mutual Understanding

1. The Greek side has accepted the items specified in II. Tentative Scope of Work, III. Undertakings by both sides and IV. Study Organization in the Discussion Paper, except for the items mentioned in I. above- Amended items and II. Comments made by the Greek side.
2. The Japanese side has accepted that the data and information to be requested by the Japanese Study Team shall be provided on the basis of the existing ones in Greece.



ICA

**ATTENDANTS' LISTS**



15A

JAPANESE SIDE

I. JICA CONTACT MISSION

1. Mr. Koichi ARAI  
(Leader) Director,  
International Cooperation Division,  
International Transport and Tourism Bureau,  
Ministry of Transport.
2. Mr. Tetsuya ISHII  
(Cooperation Policy) Official,  
Development Cooperation Division,  
Economic Cooperation Bureau,  
Ministry of Foreign Affairs.
3. Mr. Mitsuyuki IWAI  
(Regional Policy) Official,  
Second West Europe Division,  
European and Oceanic Bureau,  
Ministry of Foreign Affairs.
4. Mr. Kuniharu EBINA  
(Tourism Policy) Chief,  
Planning Division,  
Tourism Department,  
International Transport and Tourism Bureau,  
Ministry of Transport.
5. Mr. Kazuo MARUYAMA  
(Promotion Planning) Official,  
Policy Division,  
International Transport and Tourism Bureau,  
Ministry of Transport.
6. Mr. Wataru OBARA  
(Market Analysis) Researcher,  
International Cooperation Division,  
International Transport and Tourism Bureau,  
Ministry of Transport.
7. Mr. Takeshi NAKANO  
(Study Planning/  
Coordination) Deputy Head,  
Social Development Cooperation Department,  
Japan International Cooperation Agency.

II. EMBASSY OF JAPAN

1. Mr. Akinori TOMIKAWA, Minister.
2. Mr. Masahiro MIYAZAKI, First Secretary.



154



GREEK SIDE

- I. General Meeting held on 12th November, 1987.
1. Mr. Nikos SKOULAS Undersecretary for Tourism,  
The Ministry of National Economy.
2. Mr. G. KANDALEPAS Executive Secretary,  
The Ministry of National Economy.
3. Mr. G. STAMATIOU Advisor,  
Bilateral Economic Relations,  
The Ministry of National Economy.
4. Mrs. M. GEORGANDOPOULOU Bilateral Economic Relations,  
The Ministry of National Economy.
5. Mrs. H. DIAMANDOPOULOU The Department of Bilateral Economic Relations,  
The Ministry of Foreign Affairs.
6. Mr. Constantinos KYRIAZIS President,  
The Greek National Tourism Organization.
7. Mr. Constantinos SKOURAS Secretary General,  
The Greek National Tourism Organization.
8. Mrs. Rea KALOKARDOU Director,  
Dept. for Research and Tourism Development,  
The Greek National Tourism Organization.
9. Mrs. A. PYRGIOTOU Director,  
Dept. of Public Relations and Advertising,  
The Greek National Tourism Organization.
10. Mrs. Anna ANYFANTI Head of Incentives and Measures Section-  
The Greek National Tourism Organization.
11. Mr. E. SKLAVOUNAKOS Head of the Public Relations Section,  
The Greek National Tourism Organization.
12. Mrs. E. HATZINICOLAOU Head of Advertising Planning Section,  
The Greek National Tourism Organization.
13. Mrs. I. DESPOTOPOULOU Head of NTOG Offices Abroad Department,  
The Greek National Tourism Organization.
14. Mrs. E. HAMEZOPOULOU Responsible for Public Relations Section,  
The Greek National Tourism Organization.
15. Mr. Pandelis MICHALIDIS Division Manager,  
I.A.T.A.,  
Olympic Airways.
16. Mr. A. PRINGOS Hellenic Export Promotion Organization (O.P.E.)
17. Mrs. KOURAKOU Deputy Manager, International Relations,  
EIVA (Hellenic Bank of Industrial Development)
18. Mr. A. DOXIADIS President,  
The Greek Chamber of Hotels.

ISA  
./..2

19. Mr. G. GOKAS

President,  
The Panhellenic Hotel Association.

20. Mr. K. ARVANITIS

President,  
The Hellenic Association of Travel Agents.

21. Mr. KOLETIS

President,  
The Panhellenic Association of Tourism  
Enterprises Employees.

CG

ICA

### 日本における旅行市場

(概論)

#### 1. 特徴

- ・日本は1億4千万人を抱える人口の多い国である。
- ・外国へは5百万人の旅行者が出掛けるだけであり、その割合は4.2%である。
- ・強い通貨を持つ裕福な国であり、かなりの貿易黒字を抱えている(外国旅行促進にとり好材料)。
- ・労働者の休暇期間は短い。2週間を越えることはない。
- ・日本における外国旅行の実態(5百万人)を、地域別に見ると以下のようである。

(1985年実績)

ヨーロッパ	540,000	10.9%
アジア	2,410,000	49.2%
USA, カナダ	1,750,000	35.6%
オセアニア	205,000	4.3%

- ・休暇地と日本との距離は非常に離れている。
- ・ヨーロッパは日本人によって目的地として考えられており、ヨーロッパを訪れる日本人には、大変行動力がある。
- ・ヨーロッパは最も人気のある目的地として考えられているにもかかわらず、全体における参加者の割合は非常に低い(10.9%)。これは、以下の理由による。
  - ・休暇のための自由時間が限られている。ヨーロッパ旅行の価格は非常に高い。主に時間的距離のためである。(パッケージ旅行料金の70%あるいはそれ以上が運賃。)
  - ・休暇期間が限られている(2週間のみ)。
- 従って、ヨーロッパに出掛ける日本人のうちで最も多いのは、女性と学生である。

#### 2. 旅行のスタイル

- ・マルチデステイネーション型休暇(数多くのヨーロッパ諸国・周遊旅行)。
- ・モノデステイネーション型休暇(1か国だけへの訪問・休養とレクリエーションのための旅行)。
- ・モノ+1型休暇(1か国にもうあと1か国を加えた訪問・選択型旅行)。
- ・過去の統計によると、最も人気のある旅行のスタイルは、マルチデステイネーションで49%、モノ+1の47%がそれに続き、最低はモノデステイネーションの4.1%である。
- ・ヨーロッパへの旅行期間は8~9日間。
- ・ヨーロッパにおける平均目的地数は3.9か所。
- ・1か国における平均滞在期間は2.3日。
- ・パッケージ料金は、481,000円から603,000円の間であり、何か国含まれているかにより異なる。

### 3. ヨーロッパ来訪のために日本人が使うルート（86年）

- ・南回り。国際航空運送協会（IATA）加盟および非加盟会社により運航されている（ギリシアへはJALのみ）。86年の年間収容能力は、80,000席。
- ・北回り（北極ルート）。IATA加盟会社により運航されていて、年間における収容能力は1,000,000席。
- ・シベリア回り。IATA非加盟会社およびJALにより運航されている。今のところ、席の年間収容能力は限られている。
- ・アテネを除く他のヨーロッパ首都は、中部ヨーロッパ運賃（ECF）の適用を受け東京と結ばれていて、全ルートあるいはルートを組み合わせて用いられる。途中降機地1か所ごとに、しかるべき金額（約15,000円）の負担が発生する。
- ・アテネはECFの件以外にも特殊な状況にある。
- ・南回りの航空運賃はECFより安い。しかし席が不足している。
- ・北回りの航空運賃はECFよりかなり割高である。ヨーロッパの終点からアテネまでの運賃が加算されるからである。

### 4. 日本における旅行市場の傾向

- ・日本における旅行市場は、今日と比較して1995年には1.8倍、2005年には2.7倍になるだろうと予測されている。

要するに、

1985年	5,000,000日本人外国旅行者
1995年	9,000,000日本人外国旅行者
2005年	13,000,000日本人外国旅行者

ヨーロッパの目的地向け年間増加の平均は、今後10年間で2%変動するであろうと予測されている。

- ・旅行のスタイルは、主に近い目的地へはモノデスティネーション型に、主に遠い目的地へはモノ+1型（一段と選択型旅行）になる傾向にある。

### 5. 日本人がヨーロッパ旅行をする理由

- ・日本人はヨーロッパを「観光の原点」と考えている。
- ・西洋世界の文明（古代及び現代）と出会うこと。
- ・高品質で信頼性の高い商品の買物。この要求を満たす国々を人気順に並べると次のようになる。

- ・フランス
- ・スイス
- ・イギリス
- ・イタリア
- ・スペイン
- ・スカンジナビア
- ・ギリシア

とりわけ日本人がギリシアを訪れるのは次の理由による。

- ・古代遺跡（最も魅力的な理由）。

- ・エーゲ海の島々との出会い（短期滞在ではあるが）。
- 日本人の見解によると（これは日本大使館員との話し合いによる結論であるが）
- ・ギリシアは観光の目的地として人気がある。
- ・日本人にとり航空運賃は関係ない。
- ・日本からギリシアへの旅行者数は、ほぼ最大値に達している。
- ・島々へのクルーズは大評判であるが、非常に高価なものと思われる。
- ・ギリシアは、日本のテレビ用フィルム撮影に最適である。
- 日本人旅行者のギリシア向け参加者を維持するためには、次のことが必要である。
- ・日本語によるガイド問題の解決（日本語を話せるギリシア人ガイドがさらに増えるように努力すること。日本人ツアー・リーダーに対するガイド免許の交付）。
- ・これまで以上に文化行事を提供すること（オフシーズンも）。
- ・余暇活動を一層充実させること。
- ・夜間生活におけるプログラムを改善すること（ショー、ミュージカル、カジノ）。
- ・日常のショッピングの改善（商品から商店主の態度、店の営業時間に至るまで）。
- ・高級免税店を設置すること。
- ・日本のテレビで宣伝を行なうこと。
- ・さらに充実した日本語のパンフレットを作成し、ギリシアにおいても配布すること。
- ・ギリシア・ロケに来訪する撮影チームに対し、日本語による援助を推進すること。
- 日本政府は、休暇地としてのギリシアの計画を直接妨害したり、労働組合に対し、その組合員がギリシアで休暇を過ごすことに干渉することはない。介入するとすれば、日本の撮影チームによりギリシアでロケした、テレビ用フィルムに対する間接的なものであるかも知れない。

## 6. 結論

- ・日本からギリシアに向けて、旅行者の急激な増加の見込みはない。
- ・他のヨーロッパの目的地とセットになった魅力的なパッケージが求められる。
- ・我が国がECF方式に参加することにより
  - a. 我が国向けの座席数を増やせる。
  - b. 魅力的なパッケージ旅行に関する必要条件が整う。
  - c. 航空運賃の負担が重くなる（南回りの比較的安い運賃とECFとのバランスが不可欠になるため）。
  - d. このシステムにより、ギリシアは第2番目、第3番目の目的地と化す。
- ・日本へのオリンピック航空路が開設されると、南回りの交通量が増加する。
- ・市場拡大のため、状況に応じた活発な宣伝が必要である。

以下の書類を同封提出する。

1. 日本における旅行市場に関する分析論文。
2. ECFシステム導入に関するメモ。
3. 統計表

ドイツ政府観光局

日本における旅行市場

1. 市場構造—統計資料

1. 日本における旅行市場の長期展望

日本旅行業協会 (JATA)、ヨーロッパ旅行委員会 (European Travel Commission) 及びチューリッヒのゴットリーフ・ドゥットヴァイアー研究所 (Gottlieb Duttweiler Institut) によると、今後20年間、北アメリカ、ヨーロッパおよび日本における旅行人口は、引き続き増加するであろう、と予想されている。

とりわけ日本に関しては、その人口増加率が間もなく最大値に達するにもかかわらず外国旅行の増加は、国家所得指数の2倍を維持するであろう、という調査結果が出ている。

同様の数値は過去20年間にもあてはまる。この指摘を裏付ける要因をあげると次のようになる。

- 個人所得の増加
- 休暇期間の増加
- 消費型から離れ、生活の質的向上を求める国民意識の変化。

日本では、控え目に見積もっても、GNPの年間増加は次の10年間で3%、それに続く10年間で2%になるであろうと予測されており、外国旅行は、1995年で現在の1.8倍に、2005年には2.7倍になると言われている。次の表は、この観測を具体的な数字で示したものである。

	<u>人 口</u>	<u>外国旅行</u>	
1985年	120,000,000	5,000,000	(4.2%)
1995年	140,000,000	9,000,000	(6.4%)
2005年	150,000,000	13,500,000	(9.0%)

この数字は、増加の傾向にあり、かつ特殊化する需要に答えるために、質と量を伴った供給側の改善（輸送力、宿泊施設など）が必要であることを物語っている。

さらに、国内及び近隣諸国に向かう流れが一段と強くなることを考慮しなければならなくなるであろう。外国に出掛けるきわめて活動的な日本人の輸送については、状況が着々と改善されて来ている。

2. 日本人の外国旅行に関する統計資料

過去2年間に関する統計資料によると、外国に出掛ける日本人の旅客数は次のようになる。

	<u>1984</u>	<u>1985</u>	<u>84/85</u>
合計	4,568,833	4,947,814	+6.2%
チャーター	92,000	125,000	+36.0%

周知のように、日本からのヨーロッパ向けチャーター便はない。

チャーター便の目的地は、ハワイ、USA、中国、東南アジア、オセアニア、南太平洋

である。

日本人の地域別目的地は次のように分類される。

	1984	1985	85/84	割合
ヨーロッパ	488,726	536,473	+9.8%	10.9%
アジア	2,278,218	2,406,786	+5.6%	49.2%
USA・カナダ	1,647,837	1,741,608	+5.7%	35.6%
オセアニア	179,355	202,289	+12.8%	4.3%
		4,887,156		100.0%

以下は1985年にヨーロッパに出掛けた日本人総数のうち、我が国と競合するヨーロッパ諸国に出向いた人の割合である。

			平均目的地数
ギリシア	92,800	4.4%	2,098,000:536,437 =3.9
スペイン	165,000	7.8%	
イタリア	345,000	16.4%	旅行期間 8~10日
フランス	435,000	20.7%	
イギリス	360,000	17.1%	目的国ごとの平均滞在期間は 2.3日
スカンジナビア	120,000	5.7%	
スイス	410,000	19.6%	
その他	171,200	8.3%	
合計	2,098,000	100%	

### 3. 主催者旅行

日本市場に関する今日までの特異性は、次の要因による。

— 日本における外国旅行の歴史は比較的浅い。

— 日本人の有給休暇は比較的短い。

— 目的国からの距離が長い、など。

従って、数多くの目的地があり、広域をカバーする「周遊型」旅行が強いられる。

しかし、最近の研究によると、将来の旅は次のようになると結論づけている。

— a) モノデスティネーション 主に近隣の目的地

— b) モノ+1 主に遠方の目的地

この予測は、外国へ旅行する者の典型は、次第に選り好みをするようになる、というデータを裏付けるものである。近隣目的地向けの比較的安いツアーに参加することから始まり、周遊型の外国旅行に参加して成熟し、結局はその者の細分化された好みを満たしてくれる高品質のツアーにたどりつくことになる。

モノ+1への傾向に関しては、大手航空会社による「都市と周辺」システムの導入が重要な役割を演じており、コストと収益の大幅な改善のために、企業努力が活発に行われている。

日本人の旅行を分析してみると、次のような形態が認められる。

a. 多くの目的地に出掛ける旅行（マルチデステイネーション）で、目的は、同時に多くの場所に関する知識を高める必要性に端を発している旅行。休暇期間が限られていることに起因。

b. ひとつの目的地に出掛ける旅行（モノデステイネーション）で、目的は休養とレクリエーション。目的地である場所に比較的長期間滞在。この傾向は主にUSA、ハワイ及びカナダ向け日本人旅行に見られるにもかかわらず、ヨーロッパ向け旅行については、同じことが起こらない。

c. ひとつの目的地に1か所を加える旅行（モノ+1）で、旅の質的向上を目指す努力がなされている。ここで留意すべきことは、ユニークな目的地としてのヨーロッパが数々の「不可欠」で簡単に結び付けられる拠点（最低2、3か国）を抱えている、ということである。日本の大手旅行会社のひとつ（近畿日本ツーリスト）が発行するカタログに記載されている1986年（4月～10月）用団体旅行データを分析してみると、興味深いことが分る。

団体旅行全体の中でヨーロッパ向けは2,018本（100%）。

モノデステイネーション旅行は321本（15.9%）。

ヨーロッパの目的地の割り当ては以下の通りである。

パリ	170	(8.4%)
マドリッド	48	(2.4%)
ジュネーブ	43	(2.1%)
アテネ	30	(1.5%)
ローマ	30	(1.5%)

同じ旅行会社が発行する1980年から今日までのカタログによると、アテネを目的地とした団体旅行件数は確実に減少している。（それぞれのグループの参加者数は不明）

1980	88団体
1981	86団体
1982	94団体
1983	56団体
1984	56団体
1985	56団体
1986	30団体

パリを除く他のヨーロッパの目的地に関しても、同様の傾向が認められる。興味深いことに、モノデステイネーションとしてのロンドンは、1983年に「断たれてしまい」それ以来「人口」としてのみ利用されている。

以下の資料は、駐日ギリシア政府観光局事務所が、ギリシアノヨーロッパ向け夏場旅客の動向を、定期的に調査した結果である。（サンプルは「パッケージ」ツアーの既購入者あるいはすでに参加を決定した400名。）

調査期間：1982年から85年。（ハイシーズン）



表ではギリシア／ヨーロッパへ初めて出掛けた旅行者と、再訪問者を区別のうえ比較してある。目的地の選択に関しては次のように分類。

a)モノ（目的地ひとつ）、b)モノ+1（2か国）、c)GATE（3か国もしくはそれ以上で、当然ギリシアも含まれている。）

		MONO	MONO+1	GATE
ギリシア／ヨーロッパ への初訪問	1982	10.1%	22.1%	67.8%
	1983	10.1%	21.5%	68.6%
	1984	14.4%	24.7%	60.8%
	1985	3.1%	33.8%	65.1%
再訪問旅行 (リピーター)	1982	29.4%	40.2%	30.4%
	1983	9.91%	50.5%	39.6%
	1984	15.9%	63.5%	20.6%
	1985	5.7%	71.4%	22.9%
旅行者合計	1982	15%	32.9%	57.1%
	1983	10%	32.9%	57.1%
	1984	15%	40%	45%
	1985	41%	47%	49%

上の表から基本的な結論を3つ引き出すことができる。

- ひとつの目的地に向かう旅行は「経験」（初心者あるいは再訪問者）にかかわらず、急激に減少している。
- 2つの目的地に向かう（モノ+1）旅行は、これも経験にかかわらず着実に増加している。

二種類の旅行者に関し、次のことが言える。

「初心者」は数多くの目的地（GATE）。

「再訪問者」は、モノ+1（2か国がセットになったもの）。

ギリシアに関しては、特に人気のあるパッケージにこの傾向が見られる。

パリ／アテネ+もうひとつの目的地、及び

ローマ／アテネ+もうひとつの目的地。

ジュネーブ／アテネ+もうひとつの目的地。

—ひとつの目的地に向かうパッケージ料金（朝食のみ付）

	旅行期間	料金
アテネ	8日間	458,000 円
ローマ	10日間	488,000 円
マドリッド	10日間	476,000 円
パリ	8日間	468,000 円
ロンドン	8日間	468,000 円

—いくつかの目的地に向かうパッケージ料金（2食付）

	旅行期間	料金
アテネーパリ	8日間	506,800 円
ローマーパリ	8日間	401,000 円
アテネージュネーブーパリ	10日間	603,000 円
ローマージュネーブーパリ	12日間	583,000 円

注釈：JALPACのカタログによるハイシーズン料金。

—料金の変動は、市場における需要度及び様々な目的地向け（航空機）座席の収容能力を反映している。モノデスティネーションとしてのアテネは「確立している」3首都（ロンドン、パリ、ローマ）に比して人気はかなり低く、従って、顧客の関心を引く目的で、比較的「割安になっている」。

パッケージ料金はいくらか高めに設定されているのは（ギリシアにおける地上費は明らかに低いにもかかわらず）、南回りの席が不足して北極回りを利用しなければならない時を考慮しているためである。

ヨーロッパの有名な目的地とセットになったアテネには人気がある。このパッケージに対する需要が増えているにもかかわらず、旅行業者が高利益を得ることが出来るために望んでいる南回りの席が不足しているため、限られた数のグループしか組めず、価格が高騰してしまう。

—ギリシア国内の目的地別動きの予想（1986年）

	夏（4月-10月）	冬（1月、3月、 11月、12月）	合計
アテネ（ギリシア）	46,000	42,000	88,000
1日クルーズ	16,000	25,000	41,000
クルーズ（2日間）	8,500		8,500
古代観光（含スニオン）	19,000	20,000	39,000
ロドス	7,000	10,000	17,000
クレータ	9,000	7,000	16,000
ミコノス	18,000	6,000	24,000
サントリニー	7,000	2,000	9,000
その他	5,000	4,000	9,000

上記の表から、我が国内における日本人の移動が広範囲にわたっている（平均目的地3か所）という結論が導かれる。

日本からの旅行者に関する年間分布（1986年）

月	訪問者数	参加率
1月	6,200	7%
2月	9,000	10.2%
3月	11,000	12.5%
4月	6,500	7.4%
5月	6,500	7.4%
6月	5,500	6.2%
7月	6,500	7.4%
8月	8,000	9.1%
9月	6,500	7.4%
10月	6,500	7.4%
11月	7,500	8.5%
12月	8,500	8.5%
合計	88,200	100%

4. ヨーロッパの旅行目的地までの輸送手段

今日、次の航空路が利用されている。

1. 南回り：香港－バンコク－ボンベイあるいはカラチ－中東－アテネ。

航空会社：JAL が週3便及びIATA非加盟航空会社。

年間総収容能力は80,000席。

2. 北（極）回り：

IATA加盟航空会社：年間収容能力は約1,000,000席。

3. シベリア回り：

航空会社：IATA非加盟（東側の会社）。

（1986年春より、ロンドン、パリがノンストップ。）

1、年間収容能力は満杯。

3、4年後、収容能力の改善が見込まれている（英国航空、エールフランス。）

ギリシア向け輸送

（最近のマドリッドの正式参加及びリスボンの事実上の参加により）ヨーロッパ内の全首都は、IATAの枠内で、それぞれのナショナル・フラッグ・キャリアーとJALとの間で調印を済まし、東京と直結しており、中部ヨーロッパ料金（ECF）の適用を受けている。ヨーロッパで未調印の首都はアテネだけである。ヨーロッパの首都へは、南回り、あるいは北回り（北極及びシベリア経由）、あるいはそれら両方をセットした航路が用いられ、どの航路を利用しても、料金は同一である。旅客はエコノミークラスの通常運賃（実質的にはビジネスクラスと同義）を支払えば、何度途中降機しても良い権利を得、当然旅行期間の制限もない。グループ料金（GV10）による旅客は、希望する降機地（目的地の制限はない）の数により負担が重くなり、当然、旅行しよう

とする季節（ロー、ショルダー、ハイシーズン）によって料金が異なる。

アテネは、ECF とは別に特殊な立場にある。a)南回りだけを用いた場合（往復）ECF より安い。b)南回りと北回りをセットにすると（普通西行きに北回り、東行きに南回り）、ECF と同等の金額になる。c)北回りを往復用いると、他のヨーロッパ都市とギリシア間の料金が割高になる。（表を2枚添付。）

南回りの歪みは、団体旅行に参加するごく少数の旅客（日本の統計によると、現在の旅客の5%と推計）しか、往復南回りを利用しないということである。南回りの使命は、経由地間の旅客を主に受け持つからである。

多くは若者であるが、IATA非加盟航空会社（アエロフロート、タイ航空、シンガポール航空など）を利用する旅客も当然いる。これらの会社は、周遊旅行には参加しないが、きわめて魅力的な料金を提供している。これらの航空会社は複雑なルートで運航しており、収容能力も季節により異なることが、ギリシア向け団体旅行にとって障害となっている。

顧客の希望に答えるためのそれに代わる解決策は常に存在する。

料金の問題や航空機の席の収容能力や「顧客の選択」（ヨーロッパにおける目的地を最低2か所）を満足させるためには、アテネと他のヨーロッパ大都市との結びつきが必要になり、それにより、魅力的なパッケージが出来上がる。このことは、Eノアステーションとしてのアテネを確立することによって、南回りを利用したアテネに料金的メリットがないという意味ではない。

次のことが留意されるべきである。

- 南回りのユーゴスラビア航空（JAT）の定期便が開設されると（東京-アテネ-ベオグラード）、南回りの収容能力が増大することになるが、2か所の目的地（ギリシアとユーゴスラビア）向けパッケージはそれほど魅力的に作用しない。
- オリンピック航空（OA）による日本向け定期便は、同様に南回りの収容能力強化に結びつき、ECF に加入することにより、理想的なセットが組めるようになれば、
  - ギリシア行き座席の増加に直結し、
  - 現在、ギリシアと競合する国々のごとく、ヨーロッパへの入口となる。

#### 5. 競合する国々に関するコメント

- 東南アジアの目的地が、ヨーロッパ/ギリシアと競合する、と位置づけるのは難しい。2、3日の休暇（リゾートスタイル）を過ごすための計画は、ヨーロッパひいてはギリシア向けのパッケージと基本的に価格や内容が異なる。

（台湾、グアム、タイ、フィリピンなどの）人気のある国々及びそれらの国々に直結している航空会社が、日本からの旅客増大を意図して実施している努力は、ヨーロッパの国々による努力に比較して、はるかに大きい。

休暇のために用意されたパッケージの基本的な違いは、ヨーロッパ人にとって必ずしも「気休めに」ならない。ヨーロッパ人よりも、アジア人が、海外旅行者という「パイ」の大きい方の一片を持ち去ってしまうことになる。

- オーストラリア（オセアニア）は、日本における旅行市場で急速に拡大している。（表A1参照。）

旅行期間だけを見ても、オーストラリアは、ヨーロッパ向け海外旅行のケースと類似している。従って、日本人海外旅行者全体に占めるオセアニアを目的とする旅客の着実な増加を、われわれは真剣に受け止めなければならない。

日本におけるオーストラリアの宣伝効果は絶大で、旅行代理店による商品企画への影響は確実に大きくなっている。

USA（それに比していくらか劣るがカナダ）による日本攻勢はすさまじい。主に大手航空会社（ノースウエスト・オリエント、ユナイテッドなど）によるところが大であるが、アメリカ製品（Made in USA）や、いわゆるアメリカ型生活による影響が濃厚である。

ヨーロッパの目的地のうちでも、ヨーロッパの大都市（パリ、ロンドン、ローマ）とアテネ及びギリシアの旅行商品とは比較的うまく「結びついている」。「外貨を持ち歩く再訪問者」が興味を示す確立したヨーロッパ都市と競合することについて細心の注意が常に求められる。フランス、イギリス及びイタリアの旅行者による宣伝活動には生気がない。しかし、エールフランス、英国航空及びアリタリアは積極的である。これらの国々には、日本とのしっかりした商業上の関係がある。それにも増して、前述の国々には、きちんとした旅行のイメージが存在している。

スペインは、日本から見ても次第に我が国にとって強力な競合相手と見なされるようになってきている。南欧のイメージ（文化と地中海的太陽の結びつき）、パッケージの期間と料金の類似性、さらには（ギリシアとスペインという）2か国のうちのどちらを選択するかを考慮して、多様性を持ったヨーロッパ旅行に組み入れようとするとき、スペインは比較の対象となる。スペインは最近マドリッドをECFに組み入れることに成功し、当然のことながら、イベリア航空は東京への新線を開設した。スペインは、1984年まで、宣伝用に（当時の）我が国の通貨に換算し約80,000,000ドラクマを、広報に15,000,000ドラクマを費やし、この2年間で、さらにこの金額に上乗せしている。今年、宣伝に200,000,000、広報活動に40,000,000を費やすであろうと見込まれている。当然、イベリア航空の宣伝活動が加わり、スペインにとり、間接的な宣伝効果が増大することになる。

ギリシア側の積極的な活動が必須になっている。

#### 外国旅行に関する日本政府の対応

日本政府は、未だ理論上の段階であるが、海外旅行促進に強い関心を示している。これは、日本の貿易収支黒字に対する圧力に答えるものである。事実、日本政府の運輸省は最近、ヨーロッパ向け個人料金を12%引き下げようJALに対して強く求めた。円高になり、FCU（IATAの運賃算定単価）にそぐわなくなったためである。これは、JALの料金体系に政府が初めて干渉したことになり、当然その意義は大きい。大局的に見て、日本政府により政治的に管理されているJATAは、日本国民の海外往来を助長すべく努力している（報奨金を伴った旅行制度、公務員及び私企業社員の休暇延長、関税の軽減など）。前述のうち、実現したものは未だないが、引き続き努力がなされるであろうし、機は十分に熟している。

## 6. 日本人旅行者の好み

JATAが実施した調査によると、ヨーロッパを訪問したことがある旅行者の90%が再訪を希望すると言っており、USAで休暇を過ごしたことがある日本人の81%は、次回の外国旅行にはヨーロッパに行きたい、と答えている。希望と現実の選択の間には違いがあるが、それは次の理由による（目的地としてのヨーロッパは、休暇を過ごすには最も人気のある場所であり、彼らの言葉を借りると、観光の原点であるが）。

1. 休暇の可能性が限られている。ヨーロッパ向け旅行費用が非常に高く、パッケージ料金の70%あるいはそれ以上が航空運賃であることを無視してはならない。
2. 休暇期間が限られている。典型的な日本の現実。法的には2週間が許されているだけである。将来これが改善される見込みはない。数多くの調査によると、一般に30～50才の日本人には、レクリエーションのための時間があまりない。このことは、ヨーロッパ旅行に出掛ける年齢層に関する統計によっても明らかである。20～30才の年齢層は、旅行者分布で一番多く、合計の51%であるが、性別に分けてこの割合を分析してみると、さらに明瞭になる。女性の旅行者では、20～29才の年齢層が最も高く、全体の43%を示している、今日最も行動力のある旅行者であるとみなされている。比較によると、30～39才の年齢層の男性旅行者は市場全体の29%を占めているに過ぎない。未婚、既婚に拘らず、若い女性は職業に邪魔されず、比較的容易に使いたい自由時間を使えることが明らかである。

日本大使館における富川氏（参事官）と小島氏との会談で次のことが示された。

日本人ツアーオペレーターは次のように信じている。

- ギリシアはホテルや言葉の問題があるにせよ、旅行（観光）の目的地として非常に人気がある。
- 日本からギリシアへの旅行者数はおおむね最大値に達している。
- 日本人は、支払った額に見合うサービスを求める。
- 航空運賃にはそれほど関心がない。
- 4日間クルーズは、旅行業界で大きな話題になっているが、非常に高価であると考えられている。
- 我が国における日本のテレビを用いた宣伝は有効であろう。
- 日本チームによるギリシアロケには問題がある。許可証の交付が遅れがちであり駐日ギリシア大使館が発行する書類は無効であり、チームを援助するギリシア政府観光局職員が誰も同行しないからである。さらに、フィルム撮影、写真撮影の際に関係機関に支払う額が非常に高い。

何はともあれ、今年、我が国にとっての最大競合相手は、日本に他かならない。

日本人旅行者が求めるもの

- 我が国の古代遺跡は主たる関心の対象である。

ギリシアには観光ガイドにおける言葉の問題がある。日本語を話すガイドがいな  
いにもかかわらず、日本人ツアー・リーダーによるガイドは禁止されている。  
この問題が解決されないと、障害は大きくなるであろう。ガイドの内容も文化に  
おける関係も理解することが出来ないからである。2人の大使館員が象徴的に述  
べたことによると、日本人は我が国の古代遺跡や古い建造物にそれほど関心がな  
いかも知れないということである。

—それ以上に文化行事を望んでいる。主に

\*古代劇の上演

\*ミュージカル

\*音楽祭

—ショッピングの環境を改善すること。

\*日本人はブランド指向である。

\*毛皮や個性的な製品にかなり関心を持っている。工場生産された民芸品には  
興味がない。

\*街中にある（外国の免税百貨店のような）大型免税店で買物すること。

\*商店主の接客態度改善を求めている。

以下は大使館員の意見である。

\*丁寧でない（売子が）。

\*商品の品定めを許さない。

\*非常に高価な値段で売りつける。

\*営業時間の問題。

\*我が国訪問中の不快な出来事は、誇張されて記憶に残る。

—以下は彼らの提案である。

\*レジャー活動の場を増やす。

\*ナイト・ライフの改善。

\*街中にもカジノが必要（遮断された場所に）。

\*スニオンにも店を運営。

\*外貨申告に関する掲示を日本語でも飛行場に表示する。出国時に大問題にな  
ることがあるため。

\*旅行パンフレットを日本語で発行する。

日本政府は、ギリシアの観光の実状を偽って宣伝すること、労働組合に対して、特  
定の国で休暇を過ごすように提唱することも出来ない、という話で、日本大使館員と  
の会談は終了した。彼らの提案は、日本のテレビ局がギリシアでロケを行なう際手助  
けをすることにより、日本で無料の宣伝が行なえるということである。

## 7. 特殊旅行形態

a)日本人だけの会議をギリシアに誘致することはきわめて困難である。とりわけ日本  
には、非常にすぐれた会議場があり、国が決めた方針により、外国名士を加えた国  
際会議を国内の様々な都市で開催するという姿勢がある。しかし、日本人医師、大  
学人、弁護士、スペシャリスト、芸術家、ビジネスマンなどが、個人的あるいは

組織をあげて外国における、とりわけヨーロッパにおける国際会議に参加する意思があることは、注目に値する。会議に参加するための旅費、滞在費、参加費は普通参加者が所属する官庁、特殊法人及び企業といった、会社や団体や組織の負担となる。関係事務局に対する時を得た交渉があれば、良い結果が期待出来、ギリシアで開催される国際会議に、教多くの日本人／アジア人をパネリストとして招へいすることは、可能であると思われる。

主だった点を整理すると次のようになる。時を得た交渉。日本では、海外出張の予定がある場合、きちんとした計画が（最低1年前に）必要である。会議開催に関しわれわれにこれだけの準備期間が持てない場合文字通り無益に終わることになる。

b) 報奨金制度は近頃ほとんど関心が持たれていない。70年代の10年間には注目に値する制度であったが、今日では、きわめて後退してしまった。「報奨金」の実質的な利益が、送客数に比例する「ボーナス」という形をとっているためであろう。将来への見通しとして、報奨金制度復活の可能性はある。JATA（外国旅行を主体とした日本の旅行業者組合）は、行政機関に対して、報奨金制度による団体旅行の税制改善を求めている。この件に関し、われわれは成行きを見守っているところである。日本には、会議出席や「報奨金旅行」を専門にする代理店は存在しない。大手旅行代理店（JTB、近畿日本、日通、東急、日本トラベル）が、市場における大きなシェアを確保している。

c) 海上旅行（ヨット及び長期間クルーズ）は日本からの場合、不明確な部分が多い。日本人の夏期休暇期間は限られている。最大で10日である。旅行に必要な大きい時間的距離を考えると、長期間の海上観光が支持されないということが、容易に理解出来る。JATAは政府の関係機関に対し、世論を育成しながら、限られた日数の休日という不安定な現実を改善すべく、働きかけている。私企業では、休日数が法律で定められ、官庁では、慣例により夏期20日の休暇が認められている。

日本人がヨーロッパを旅行する場合、ほとんどが大急ぎで教多くの目的地（マルチデステイネーション）に向かう。言い換えれば、ヨーロッパの3か国あるいはそれ以上の国をセットにした旅行である。ギリシア滞在に関する来年の新企画は、「可能な限り」海上旅行に重点を置いている。

ここでは、「繰り返し」旅行をする人（リピーター）のパイプを太くする、絶好の機会である、という見通しをたてている。

一般的に、ヨーロッパに向かうリピーターの流れは引き続き太くなる。主なヨーロッパの目的地は、長期滞在を因るために「ライフスタイル」（演劇、ファッションショッピング、食事、スポーツなど）を「売り込んでいる」。ギリシアでは、その原点であり基本である魅力（「朝のアクロポリス」、「一日クルーズ」、「スニオンの夕日」）が主たる内容であり、それらを最大2日間の「パッケージ型」に凝縮するのは容易である。ただし、再訪問者に対し、結果的に「おとり」にならないように留意すべきである。

日本のような島国において、逆説的になるが、住民はあまり航海に慣れていないということを知っておく必要がある。特に富裕な旅行者は、クルーズに慣れておらず



さらに少数の日本人しかヨットに関心を示していない。  
エーゲ海は当然のことながら、日本人を魅了している。過去15年間にわたる観光局の宣伝が効を奏し、エーゲ海のイメージが定着したが、それぞれの島が持つ個性（大衆建築様式や色の調和）についてであり、エーゲ海での苦行の楽しみや費用がかかる航行についてではない。われわれはこのテーマに関して慎重であるが、誤解をして欲しくない。日本市場で我が国の海上商品を公表するためには、中途半端は許されず、我が国の現状や貿易の特異性を認識している日本では、クルーズとヨットに関する精力的なマーケティングをただちに実施する必要がある。  
早急な受け入れプログラムの採用が必要であり、サービスの改善（日本食、日本語によるアナウンスメントなど）が求められる。  
市場の潜在力（ポテンシャル）は大きい。エーゲ海には、彼らを引きつけるものがある。ヨーロッパ向けのリピーターが増える傾向であることに注目しなければならない。同時に、日本人の経済水準が引き続き上昇することにも留意する必要がある。  
我慢強い作業と正しいマーケティングが求められる。

ギリシャ国観光振興計画  
事前調査団（S/W協議）対処方針

1. S/W（案）について

(1) 調査内容に関し

調査内容の骨子はS/W案のとおりとするが、希側より項目の追加要望が出された場合には、要望の内容が本件調査主旨に合致するものか否かを調査団内で検討し、判断することとする。

(2) 上記(1)以外の条項に関し

上記(1)以外の条項について、希側より質問あるいは修正要望があった場合には、「国際約束確認文書and/or実施細則（先方と問題となることの多い点の取扱いについて）」に記載された方針に基づき調査団内で検討するとともに、在希日本国大使館とも協議し、適宜対処することとする。

(3) 調査期間に関し

S/W（案）の12ヶ月を、希側の要望、現地の状況（資料の賦存状況等）より再検討が必要となった場合には、調査団内で検討し、その結果を報告することとする。

2. 要確認事項

(1) 希側署名者及び連署人の必要性


(2) 希側の調査実施体制（カウンターパート、Advisory Committee等）

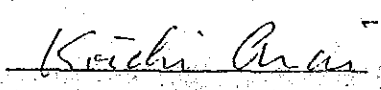
(3) 既存資料（携行するQuestionnaireに基づき存否の確認及び収集）

(4) 便宜供与（事務所スペース等の提供等）

SCOPE OF WORK  
FOR  
THE STUDY OF TOURISM PROMOTION  
: WITH SPECIAL REFERENCE TO THE MEASURES  
TO INCREASE JAPANESE TOURISTS TO GREECE  
IN  
GREECE  
AGREED UPON BETWEEN  
GREEK NATIONAL TOURISM ORGANIZATION  
AND  
THE JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY

MARCH 31st, 1988  
ATHENS, GREECE

  
MR. CONSTANTINOS KYRIAZIS,  
PRESIDENT,  
GREEK NATIONAL  
TOURISM ORGANIZATION

  
MR. KOUICHI ARAI,  
LEADER,  
PRELIMINARY SURVEY TEAM,  
THE JAPAN INTERNATIONAL  
COOPERATION AGENCY

## I. INTRODUCTION

In response to the request of the Government of Greece, the Government of Japan has decided to implement the Study of Tourism Promotion: with Special Reference to the Measures to Increase Japanese Tourists to Greece (hereinafter referred to as "the Study"), in accordance with the relevant laws and regulations in force in Japan.

The Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA"), the official agency responsible for the implementation of the technical cooperation programme of the Government of Japan, will undertake the Study in close cooperation with the authorities of Greece.

The Greek National Tourism Organization (hereinafter referred to as "GNTO") shall act as the counterpart organization to the Japanese Study Team and also act as the coordinating organization with other relevant organizations for the smooth implementation of the Study.

The present document sets forth the Scope of Work for the Study .

## II. OBJECTIVE OF THE STUDY

The objective of the Study is to make analysis of the existing constraints and problems, and to make recommendations for possible measures to increase Japanese tourists to Greece.

Special emphasis will be placed mainly on the aspect of administration and institution as well as the aspect of infrastructure in the tourism sector in Greece.

## III. SCOPE OF THE STUDY

### 1. STUDY AREA

The Study shall cover the areas specified in Greece as the destinations and the area in Japan as the origin of tourists.

CK

LCA

## 2. TARGET YEAR

The year 1992 shall be defined as the target year for the forecast of the future demand and recommendations.

## 3. STUDY ITEMS

In order to achieve the objectives mentioned above, the Study shall cover the following items:

### (1) Analysis of Existing Conditions

- a) Review of the previous studies with direct relevancy to Japanese tourists
- b) Investigation of present conditions (policy, plans, programs, projects, resources, infrastructure and institution)
- c) Identification of constraints and problems

### (2) Market Research and Demand Forecast for Japanese Market

- a) Evaluation of resources and infrastructure
- b) Market research and analysis
- c) Assessment of internal / external factors affecting the future demand
- d) Forecast of tourism demand

### (3) Formulation of Plan for Tourism Promotion to Increase Japanese Tourists

- a) Establishment of goals and objectives
- b) Preparation of criteria to attract Japanese tourists
- c) Establishment of promotion strategy and tactics
- d) Formulation of implementation programs

### (4) Recommendations

## IV. STUDY SCHEDULE

The Study will be conducted in accordance with the attached tentative study schedule.

(CA)

## V. REPORT

JICA will prepare and submit the following reports in English to the Government of Greece:

1. Inception Report  
30 Copies  
At the beginning of the Study
2. Interim Report  
30 Copies  
in the course of the Study
3. Draft Final Report  
30 Copies  
At the final stage of the Study
4. Final Report  
50 Copies  
Within two months after receipt of comments from GNTG on the Draft Final Report.

## VI. UNDERTAKINGS OF THE GOVERNMENT OF GREECE

1. To facilitate the smooth implementation of the Study, the Government of Greece shall take necessary measures:
  - 1) To permit the members of Japanese Study Team to enter, leave and sojourn in Greece for the duration of their assignment therein, and exempt them from alien registration requirements and consular fees.
  - 2) To exempt the members of Japanese Study Team from taxes, duties and other charges on equipment, machinery and other materials brought into Greece for the implementation of the Study.
  - 3) To exempt the members of the Japanese Study Team from income tax and other charges of any kind imposed on or in connection with any emoluments or allowances paid to the Japanese Study Team for their services in connection with the implementation of the Study.

OK

ICA

- 4) To provide the necessary facilities to the Japanese Study Team for the remittances as well as utilization of funds introduced into Greece from Japan in connection with the implementation of the Study.
  - 5) To inform the members of the Japanese Study Team of any existing risks in the Study area and to take any measures deemed necessary to secure the safety of the Study Team.
  - 6) To secure permission for entry into private properties and restricted areas in connection with field survey, taking into account the usual security measures and public order restrictions.
  - 7) To secure permission for Japanese study team to take all data and documents (including photographs) related to the Study out of Greece to Japan, taking into account the usual security measures and public order restrictions.
  - 8) To provide medical services as needed. Its expenses will be chargeable to the members of the Japanese Study Team.
2. GNTO shall, at its own expense, provide Japanese Study Team with the following, in cooperation with other relevant organizations:
    - 1) Available data and information related to the Study.
    - 2) Counterpart personnel.
    - 3) Credentials or identification cards.
    - 4) Suitable office space with necessary equipment.
  3. The Government of Greece shall bear claims, if any arises against the members of Japanese Study Team resulting from, occurring in the course of, or otherwise connected with the discharge of their duties in the implementation of the Study, except when such claims arise from gross negligence or willful misconduct on the part of the members of the Japanese Study Team.

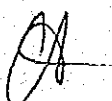
## VII. UNDERTAKINGS OF JICA

For the implementation of the Study, JICA shall take the following measures:

1. To dispatch, at its own expense, the Study team to Greece
2. To perform technology transfer to the Greek counterpart personnel in the course of the Study
3. To provide equipment and machinery for the implementation of the Study, which will remain the property of JICA unless otherwise agreed upon

## VIII. CONSULTATIONS

JICA and GNTD will consult with each other in respect of any matter that is not agreed upon in this document and that may arise from or in connection with the Study.



ICA



ANNEX: TENTATIVE STUDY SCHEDULE

MONTH	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
STUDY IN GREECE													
STUDY IN JAPAN													
REPORT		△ IC/R				△ IT/R				△ DF/R		△ F/R	

NOTE: IC/R ... Inception Report  
 IT/R ... Interim Report  
 DF/R ... Draft Final Report  
 F/R ... Final Report

*CA*

*ICA*

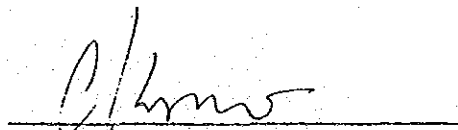
MINUTES OF MEETING  
FOR  
THE STUDY OF TOURISM PROMOTION  
: WITH SPECIAL REFERENCE TO THE MEASURES  
TO INCREASE JAPANESE TOURISTS TO GREECE

The Japanese Preliminary Team (hereinafter referred to as "the Team") sent by the Japan International Cooperation Agency, headed by Mr. K. Arai, visited Greece from 27th March to 1st April, 1988, for the purpose of confirming the Scope of Work for the Study of Tourism Promotion, with special reference to increase Japanese tourists to Greece (hereinafter referred to as "the Study").

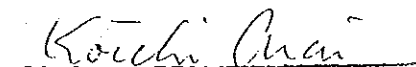
The Team had a series of discussions on the Scope of Work for the Study with representatives of the Greek National Tourism Organization and other organizations concerned, and both sides agreed on the Scope of Work for the Study.

Attendants' List of both sides are attached in the Annex.

ATHENS, GREECE  
31st MARCH, 1988



MR. CONSTANTINOS KYRIAZIS,  
PRESIDENT,  
GREEK NATIONAL  
TOURISM ORGANIZATION.



MR. KOUICHI ARAI,  
LEADER,  
PRELIMINARY SURVEY TEAM,  
THE JAPAN INTERNATIONAL  
COOPERATION AGENCY.

ANNEX

LIST OF ATTENDANTS

1. The Greek Side

Mr. Constantinos Kyriazis : President, N.T.O.G.  
Mrs. I. Despotopoulou : Head of Research & Marketing Dpt., N.T.O.G.  
Mrs. A. Anyfanti : Head of E.E.C. and Bilateral Relations  
Dpt., N.T.O.G.  
Mrs. N. Alevra : Research & Marketing Dpt., N.T.O.G.  
Mr. N. Zaharoglou : International Relations Dpt., N.T.O.G.  
Mrs. E. Hamezopoulou : Public Relations Dpt., N.T.O.G.  
Mrs. N. Dourida : Advertising Dpt., N.T.O.G.  
Mrs. M. Diamantopoulou : Official. The Department of Bilateral  
Economic Relations, The Ministry of  
Foreign Affairs.  
Mrs. M. Georgantopoulou : Official. Bilateral Economic Relations,  
The Ministry of National Economy.

2. The Japanese Side

(1) JICA Preliminary Survey Team:

Mr. ARAI Kouichi : Team Leader  
Mr. SHINOURA Tadashi : Member (Cooperation Planning)  
Mr. AOKI Makoto : Member (Cooperation Policy)  
Mr. IWAI Mitsuyuki : Member (Regional Policy)  
Mr. OBARA Wataru : Member (Tourism Promotion Planning)  
Mr. HOSHINO Kanji : Member (Demand Study)

(2) Embassy of Japan:

Mr. Akinori Tomikawa : Minister  
Mr. Masahiro Miyazaki : First Secretary



MINISTRY OF NATIONAL ECONOMY  
DEPUTY MINISTER

02

Athens, 3d September 1987

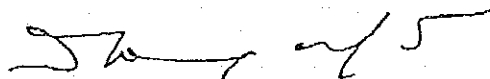
His Excellency  
Mr. Tsuneo Tanaka,  
Ambassador of Japan  
Embassy of Japan  
En ville

*Excellency,*

Further to my letter of 21st July, 1987 I would like to confirm our willingness to promote the development of the tourist cooperation between our two countries.

The Ministry of National Economy would therefore be highly appreciative if the Japanese Government could be kind enough to dispatch to Greece a mission of Japanese tourist officials in the near future, in order to define with their Greek counterparts the terms of such cooperation.

*Kind personal regards,  
Yours sincerely,*



Theodore B. Karatzas

### Greek Travel Market

1. The number of tourists visiting Greece, relatively stagnant through 1974, has been steadily increasing, from 2 million people in 1974 to 7 million in 1986. One third of the Greek foreign currency income relies on the sightseeing income.
2. Trend of Tourists
  - a) Europe is the most popular destination for Japanese. Among the European countries, Greece, the cradle of the western civilization, with a rich cultural heritage and jump-off point for visiting the Aegean Sea islands, is moving into second place in popularity, after Switzerland. However, this increase in popularity is not necessarily connected to an increase of Japanese tourists at present.
  - b) When classifying Japanese tourists by destination, Asia and North America are by far the most popular countries, 49% and 34.8% respectively, followed by Europe, at 10.5%. Greece's share of the European market is an unstable 3%. West Germany, Italy, Switzerland and Spain are expanding their market shares, using promotional efforts such as Romantic Avenue and Märhen Avenue.  
  
Furthermore, most of the tourists visiting Greece are Europeans. Japanese tourists make up only 1% of Greece's tourists.
  - c) The number of Japanese tourists visiting Greece in the 1970s increased steadily, and due to great interest in the Aegean Sea area after the best selling novel "In Honor of the Aegean" written

by Masuo Ikeda in 1979, Aegean Sea travel increased substantially by 110% from the previous year. The peak level could not be sustained, however, due to the oil crisis and the international air fare increases which accompanied it.

### 3. Travel Statistics

#### a) Sex and Age

The Japanese, particularly women, have a strongly romanticized image of the Aegean Sea. 53.6% of the Japanese tourists visiting Greece are women, a rate higher than that of any other European countries.

Of all Japanese women who travel abroad, women in their 20's are the most numerous, at 42.8%.

#### b) Purpose

While 83% of all tourists visit Greece for sightseeing, Japanese tourists who go for sightseeing number only 62%. 25% of Japanese who visit Greece are there for business which is greater than the 7% of all visitors to Greece for business.

#### c) Average Number of Travel Days

Trips to major overseas destinations by the Japanese last 7.9 days while those to Europe last 14.5 days.

However, the number of days for stays in Greece on the average is only two to three days.

d) Travel Expense

For European travel, Japanese tourists pay an average of ¥863,000 much higher when compared with the average worldwide travel expense of ¥527,000. The air fare portion of the travel is rather high, 36% of the total cost.

However, the expense is the same as that to Australia. Although air fare is higher at 47% of the tour expense, in view of the substantially increasing number of Japanese tourists, the relatively high tour and air fare costs are evidently not a deterrent to the Japanese tourists.

e) Activities by Destination

As seen from the activities of Japanese tourists in Europe in the attached data, shopping weighs rather high. Therefore, Greece should develop and improve their souvenir market.

f) Travel Seasons

Eighty-two (82) percent of all tourists go to Greece from April to September, with the greatest concentration in July and August, since Greece is a summer-type destination.

The peak travel time for Japanese tourists going overseas is August, but the level remains much the same throughout the year. The greatest number of Japanese tourists visit Greece in February and March.

Considering the fact that 18 to 25 year-old women, who make up a large part of the Japanese tourists going to Greece, prefer to

travel in December and January, and students, who hold another large part of this market, travel at the academic year end, in February and March, and that booking for air lines and hotels (especially in islands) is difficult in July and August, it is most effective to promote an increase of Japanese tourists from October through March when the sightseeing season in Greece is low.

#### 4. Air Lines

- a) Although there are more than 30 flights a week between Tokyo and Athens at present, they are all inconvenient, requiring numerous flight transfers and connections. Only three of these are direct flights on the southern, "silk road" route. Lufthansa Airlines, Swiss Airlines and KLM Airlines stopped services in April 1983, March 1986 and May 1986, respectively. Therefore, the number of seats on silk-road flights is extremely insufficient. Furthermore, Japan Air Lines is planning to decrease its direct silk-road route flights from three to two in fiscal 1988.

Although there are many more flights on the northern polar route as compared with the southern-route flights, they are not direct, and the necessity to change flights takes long hours. A one-night stay is required when arriving at a European destination in the afternoon from Japan since Olympic Airline flights leave Athens in the morning, arrive in and leave European destinations at noon, and then return to Athens in the evening. This is an obstacle to Japanese who travel in a comparatively brief period of time.



b) There is a trend of decreasing service on the silk road routes. According to Olympic Airlines, there is not much hope for immediate improvement of the present situation of bad flight connections on the polar route flights due to lack of airplanes.

Flying into Japan on Olympic Airlines is no problem from the aviation agreement standpoint. However, the policy of OA is to give priority to flights to Chicago and Canada where there are many Greek immigrants. Therefore, there is no plan to let the airlines fly to Japan for the next five years. However, if present negotiations between the Greek and Australian governments for increased service to Australia do not materialize, there is a possibility that OA may begin flying into Japan.

c) It seems that strikes by employees, which have been a great problem in the past, have decreased. OA's strike record is now as good as, or better than, any other airlines.

##### 5. Greek Market Viewed by the Japanese Travel Agencies

a) Since the Japanese, particularly women, have very romanticized images of the Aegean Sea, Greece is very popular among women in their 20s and honeymooners. However, there isn't much interesting sightseeing in Greece. Antient remains and Aegean Sea cruises are the only sights, and there are none of the shopping pleasures, brand name goods, night life, etc. which can be of added value. Consequently, Greece cannot be a sole destination tour. It should be one destination of a multi-destination-type package tour in combination with London, Paris, Rome, etc., the popular destinations in Europe at present.

b) Some of the many problems are: no improvement has yet been made on convenient access to Greece, an indispensable requirement for a long destination; Greek food is not adapted for the Japanese taste, olive oil and salt flavors are usually too strong; information such as sign boards, pamphlets, etc. in tourist resorts often appear only in the Greek language which is unfamiliar to Japanese; even English is not often used; the number of Japanese-speaking guides are few and they are not good; operating hours of stores are short; there are no souvenirs to stimulate buying. Although the Japanese request services appropriate to their travel expenditure level, these requests are not necessarily met. These are hindrances to making trips to Greece by the Japanese.

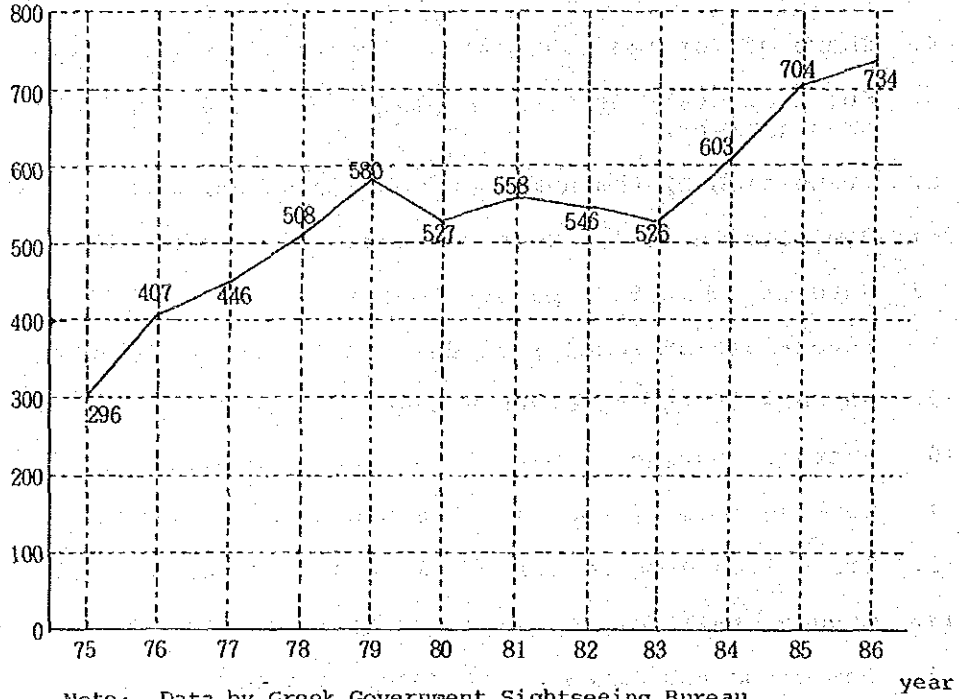
6. The number of overseas tours by the Japanese is increasing steadily, as income levels and free time increase. It seems that the number will continue to increase in the future too, due to the perception they are receiving a good bargain on overseas trips due to the high yen value. As mentioned above, there are many obstacles in travelling to Greece for the Japanese, and unless these are resolved and positive promotion activities are carried out on the Greek side, there is no easy way to substantially increase Japanese tourists.

**Data Edition**

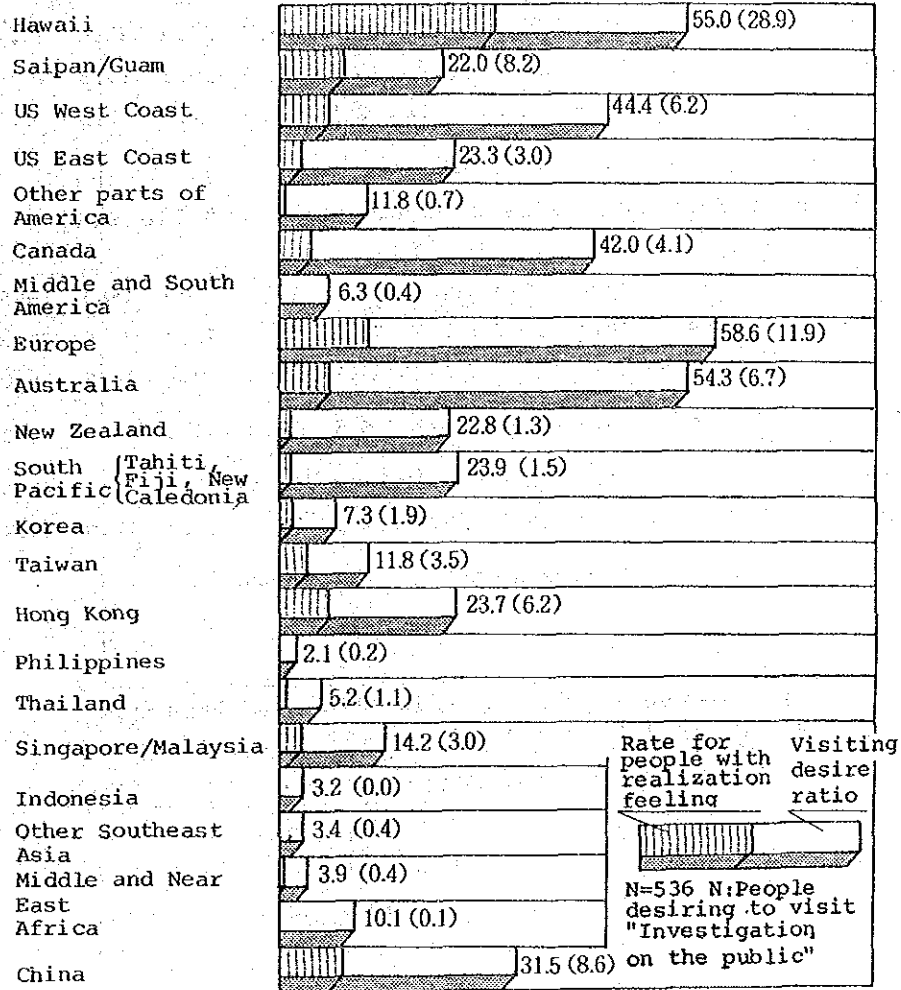
1. Transition of the number of foreign tourists Greece received
2. Intended overseas visiting places by the Japanese
3. Share of overseas touring places by the Japanese classified by area
4. Share of foreign tourists Greece received classified by area
5. Share of overseas touring places by the Japanese classified by area (Europe)
6. Transition of the number of Japanese tourists Greece received
- 7-1 Composition of Japanese tourists overseas by sex and age
- 7-2 Rate of women in Japanese tourists (Europe)
8. Investigation results on desired cruise of Japanese women
9. Purpose of the tourists Greece received
10. Average touring number of the Japanese overseas tourists
11. Touring form of the Japanese overseas tourists
12. Travelling expenses of the Japanese overseas tourists
13. Conduct ratio of the Japanese overseas tourists by destination
14. Number of the Japanese overseas tourists by month
15. Number of Japanese tourists Greece received by month
16. Travelling season which the Japanese women desire
17. Number of foreign tourists Greece received by month (1985)

1. Transition of the Number of Foreign Tourists  
Greece Received

10,000  
people



2. Intended Overseas Visiting Places by the Japanese



Note: Data by Japan Airlines

3. Share of Overseas Touring Places by the Japanese  
Classified by Area (unit: %)

	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986
Asia	54.4	54.3	52.4	51.1	50.5	50.0	49.5	48.9	48.6	49.0
North America	32.5	32.8	34.2	35.5	35.3	35.2	35.2	35.4	35.2	34.8
Europe	10.7	10.3	10.6	10.0	10.2	10.3	10.3	10.5	10.8	10.5
Oceania	1.0	1.2	1.4	2.0	2.5	3.0	3.5	3.8	4.1	4.5

Note: Data by the Ministry of Justice

4. Share of Foreign Tourists Greece Received Classified  
by Area (unit: %)

	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986
Europe	64.6	66.3	64.7	72.7	74.2	75.3	71.0	73.0	76.8	84.3
America	15.4	12.5	13.1	7.8	7.8	8.0	9.9	10.0	8.8	4.4
Mid-Eastern Asia	4.7	5.5	7.6	5.7	5.5	5.3	6.2	5.0	4.2	4.0
(Japan)	(1.0)	(1.2)	(2.2)	(1.4)	(1.3)	(1.4)	(1.6)	(1.4)	(1.3)	(1.2)
Others	15.3	15.7	14.6	13.8	12.5	11.4	12.9	12.0	10.2	7.3

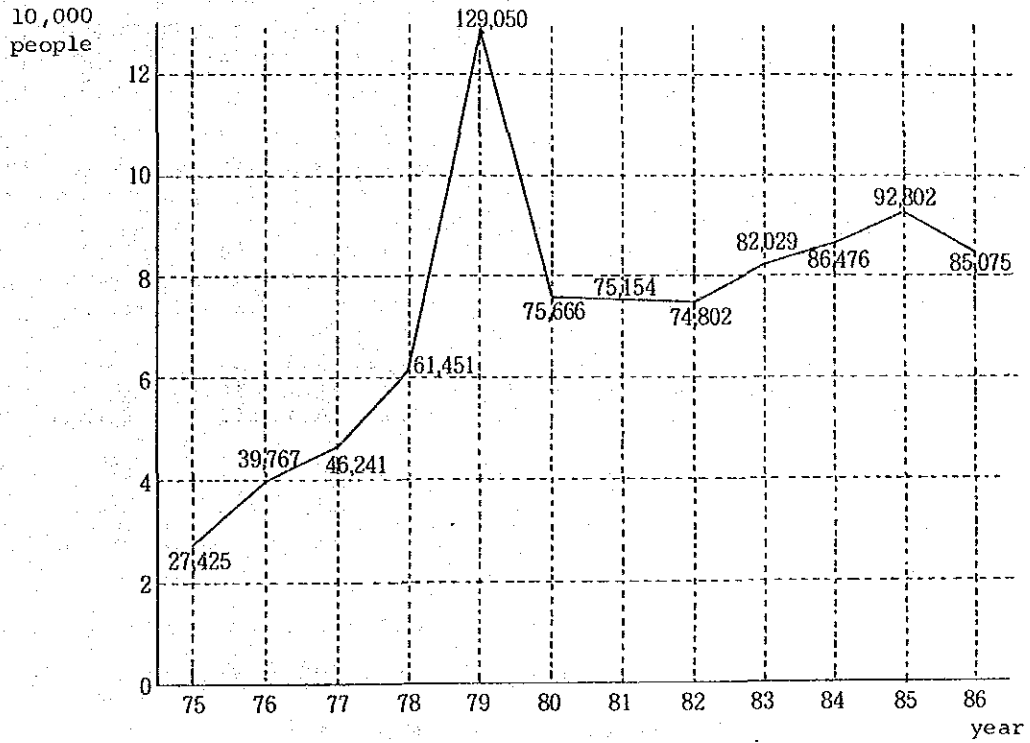
Note: Data by Greek Government Sightseeing Bureau

5. Share of Overseas Touring Places by the Japanese  
Classified by Area (Europe)

	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986
France	39.0	37.1	35.4	34.3	33.2	31.4	30.0	29.4
England	22.8	22.1	22.2	21.3	21.0	21.7	22.2	22.8
W. Germany	10.8	12.1	12.7	13.0	13.3	14.1	14.9	15.0
Italy	5.5	5.3	5.6	6.1	6.2	6.6	6.6	7.1
Switzerland	4.0	4.7	4.9	5.2	5.6	5.3	5.4	5.4
Spain	3.0	3.2	3.5	3.5	3.7	3.8	4.1	4.3
Greece	3.1	3.0	3.3	3.7	3.8	3.7	3.4	2.8

Note: Data by the Ministry of Justice

6. Transition of the Number of Japanese Tourists  
Greece Received.



Note: Data by Greek Government Sightseeing Bureau



7-1 Composition of Japanese tourists overseas by sex and age

	Sex	Total No.	Below 9 yrs old	10~19	20~29	30~39	40~49	50~59	Over 60 yrs old	Unknown
1982	Total No.	100.0	1.5	3.2	26.8	24.8	19.9	14.2	9.4	0.2
	Male	100.0	1.1	2.2	19.2	29.4	24.1	14.8	9.0	0.2
	Female	100.0	2.3	5.3	42.9	15.2	10.9	13.1	10.2	0.1
1983	Total No.	100.0	1.5	3.3	27.1	24.0	19.6	14.5	9.8	0.2
	Male	100.0	1.2	2.3	19.2	28.6	24.0	15.2	9.4	0.1
	Female	100.0	2.2	5.4	43.0	14.7	10.8	13.1	10.5	0.3
1984	Total No.	100.0	1.5	3.5	27.0	23.3	19.6	14.7	10.3	0.1
	Male	100.0	1.1	2.5	18.9	27.9	24.1	15.5	9.9	0.1
	Female	100.0	2.1	5.5	42.5	14.5	10.8	13.3	11.0	0.3
1985	Total No.	100.0	1.5	3.7	27.4	23.2	19.1	14.7	10.4	0.0
	Male	100.0	1.2	2.7	19.1	27.8	23.6	15.7	10.0	0.0
	Female	100.0	2.1	5.8	43.3	14.4	10.4	12.9	11.0	0.0
1986	Total No.	100.0	1.6	4.2	27.3	22.9	18.8	14.8	10.5	0.0
	Male	100.0	1.2	2.9	18.9	27.4	23.4	15.9	10.3	0.0
	Female	100.0	2.2	6.6	42.8	14.6	10.3	12.7	10.8	0.0

Note: Data by the Ministry of Justice

7-2 Rate of women in Japanese tourists (Europe)

Country Name	1984	1985	1986
England	41.5%	42.7%	43.8%
W. Germany	31.3	32.7	33.6
France	49.6	49.1	49.5
Italy	47.1	47.0	47.9
Spain	48.3	49.5	51.3
Switzerland	45.0	44.8	43.9
Netherlands	37.6	37.7	37.1
Sweden	28.2	28.7	28.9
Denmark	38.1	39.3	36.1
Norway	47.8	-	-
Greece	54.2	54.2	53.6
USSR	26.7	29.4	28.8
Belgium	-	27.1	31.1
Others	37.1	41.4	41.0
Average	42.9	43.2	43.8

Note: Data by the Ministry of Justice

8. Investigation Results on Desired Cruise of Japanese Women

	18 ~ 25 (students)	18 ~ 25 (female workers)	26 ~ 35	36 ~ 50	Over 51 yrs old
No. 1	Going round Agean Sea 67.6%	Going round Agean Sea 66.7%	Going round Agean Sea 75.0%	Going round Agean Sea 68.3%	Going round Agean Sea 49.0%
No. 2	Going round Mediterranean Sea 61.8%	Going round Mediterranean Sea 53.9%	Going round Mediterranean Sea 51.0%	Going round Mediterranean Sea 41.4%	Hawaiian Sea-lane 35.0%
No. 3	Going round Caribbean Sea 46.1%	Going round Caribbean Sea 49.0%	Going round Caribbean Sea 49.0%	Going round Caribbean Sea 38.5%	Going round Mediterranean Sea 35.0%
No. 4	U.S. West Coast Sea-lane 29.4%	U.S. West Coast Sea-lane 34.3%	U.S. West Coast Sea-lane 27.1%	Hawaiian Sea-lane 27.9%	Going round Caribbean Sea 31.0%
No. 5	Chinese Sea-lane 20.6%	Hawaiian Sea-lane 25.5%	South Pacific Sea-lane 24.0%	U.S. West Sea-lane 27.9%	South Pacific Sea-lane 20.0%

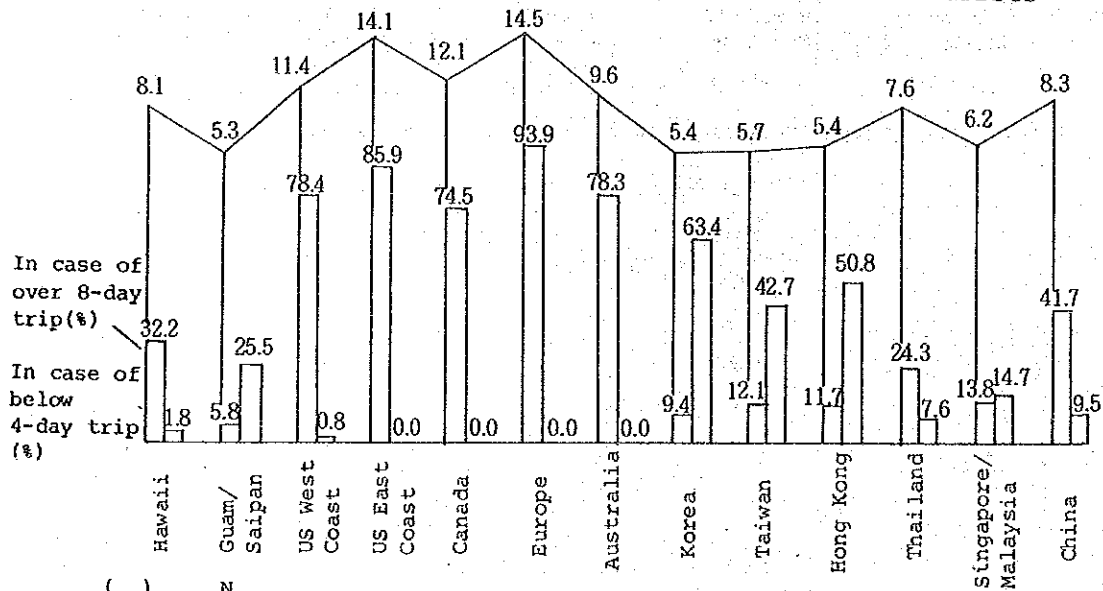
Note: Data by Japan Maritime Affairs Public Relations Association

9. Purpose of the Tourists Greece Received

Distribution by purpose of visit	Foreign tourism	Japanese tourists
Transit	1%	4%
Holidays	83%	62%
Business Journeys	7%	25%
Visits to friends and relatives	1%	—
Others	2%	8%
Combination 1X2	2%	1%
Combination 1X3	3%	—
Combination 1X4	1%	—

Note: Data by Greek Government Sightseeing Bureau

10. Average Touring Number of the Japanese Overseas Tourists



Note: Data by the Japan Airlines

11. Touring Form of the Japanese Overseas Tourists

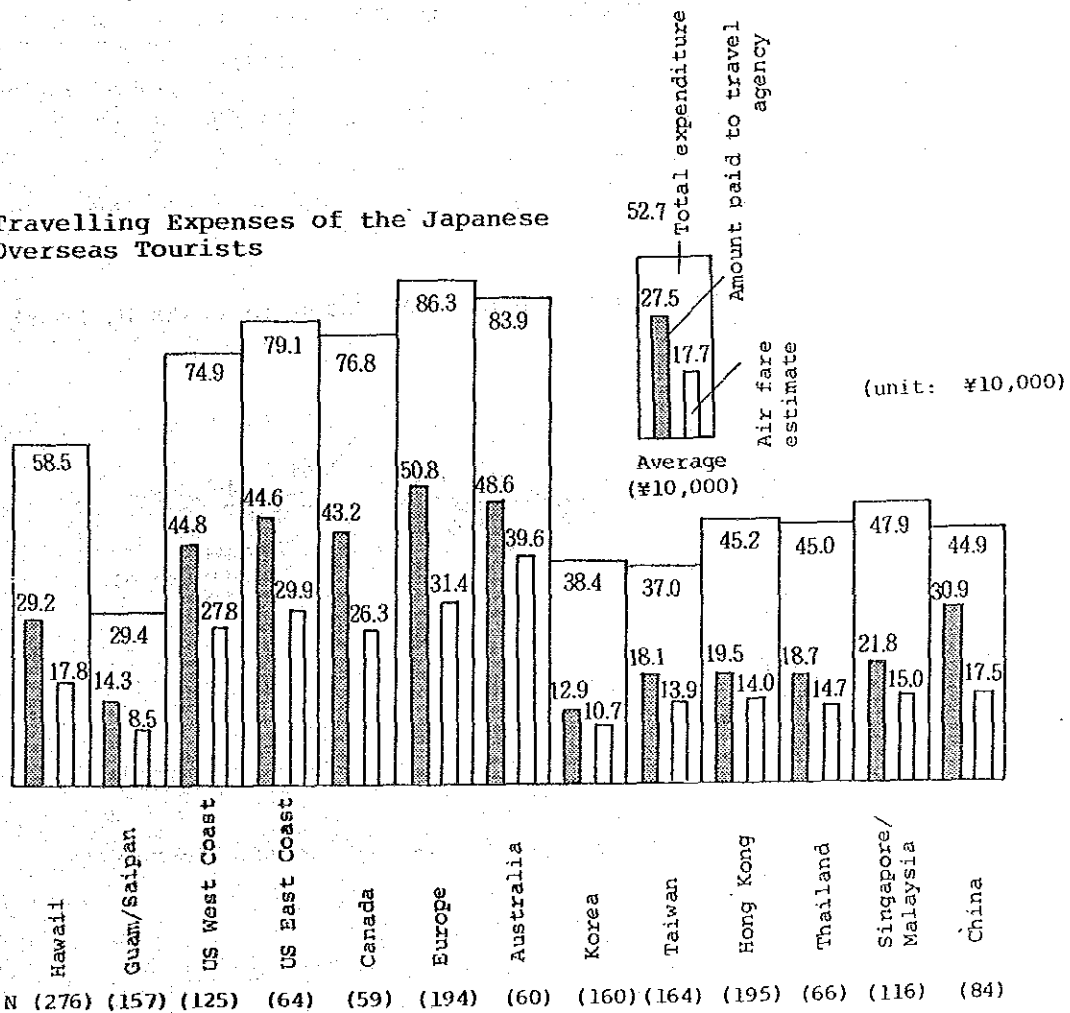
( ) ... N

Destination \ Form	Hawaii	Guam/Saipan	US West Coast	US East Coast	Canada	Europe	Australia	Korea	Taiwan	Hong Kong	Thailand	Singapore/Malaysia	China
	(276)	(157)	(125)	(64)	(59)	(194)	(60)	(160)	(164)	(195)	(66)	(116)	(84)
Package tour	64.9	72.6	40.8	26.6	57.6	50.0	53.3	23.1	23.8	49.7	37.9	62.1	53.6
Individual tour	17.4	12.7	39.2	46.9	27.1	32.0	36.7	52.5	54.3	36.4	40.9	21.6	19.0

Note: "Individual tour" means a trip to freely select the departure day, arrival day, hotel, airline company, etc. according to his or her schedule.

Note: Data by Japan Airlines

12. Travelling Expenses of the Japanese Overseas Tourists

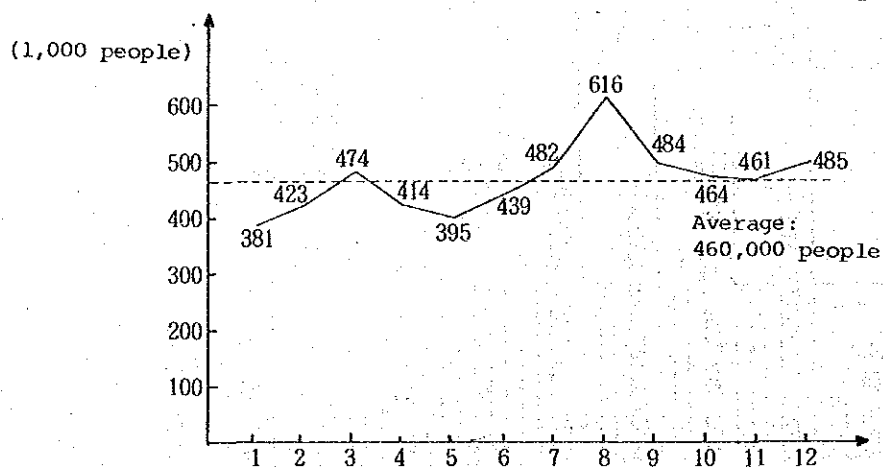


13. Conduct Ratio of the Japanese Overseas Tourists by Destination  
(Conducts at each site)

		No. 1	No. 2	No. 3	No. 4	No. 5	Others (typical)
Stay type	Hawaii (N=165)	Shopping (70.6)	Nature-view (59.3)	Town sightseeing (47.9)	Site round trip (45.2)	Suntan (36.4)	Sports (29.4)
	Guam/Saipan (N=96)	Shopping (68.1)	Nature-view (55.8)	Sports (50.4)	Suntan (45.8)	Rest (45.1)	Driving (21.9)
	Korea (N=82)	Shopping (48.8)	Town sightseeing (48.8)	Culture history (47.6)	Eating around (37.8)	Site round trip (32.9)	Night life Night play (17.1)
Excursion type	Europe (N=114)	Nature-view (68.4)	Culture History (66.9)	Shopping (62.5)	Site round trip (58.1)	Town sightseeing (52.6)	Folk entertainment Music, Arts (4.9)
	Canada (N=41)	Nature-view (86.3)	Site round trip (56.9)	Town sightseeing (56.1)	Shopping (51.0)	Culture History (37.3)	Driving (17.1)
	US West Coast (N=79)	Shopping (62.0)	Culture History (59.3)	Town sightseeing (58.2)	Site round trip (57.4)	Culture History (38.9)	Sports (13.9)
	China (N=47)	Culture History (63.8)	Site round trip (63.8)	Culture History (59.6)	Shopping (59.6)	Town sightseeing (46.8)	Eating around (40.4)

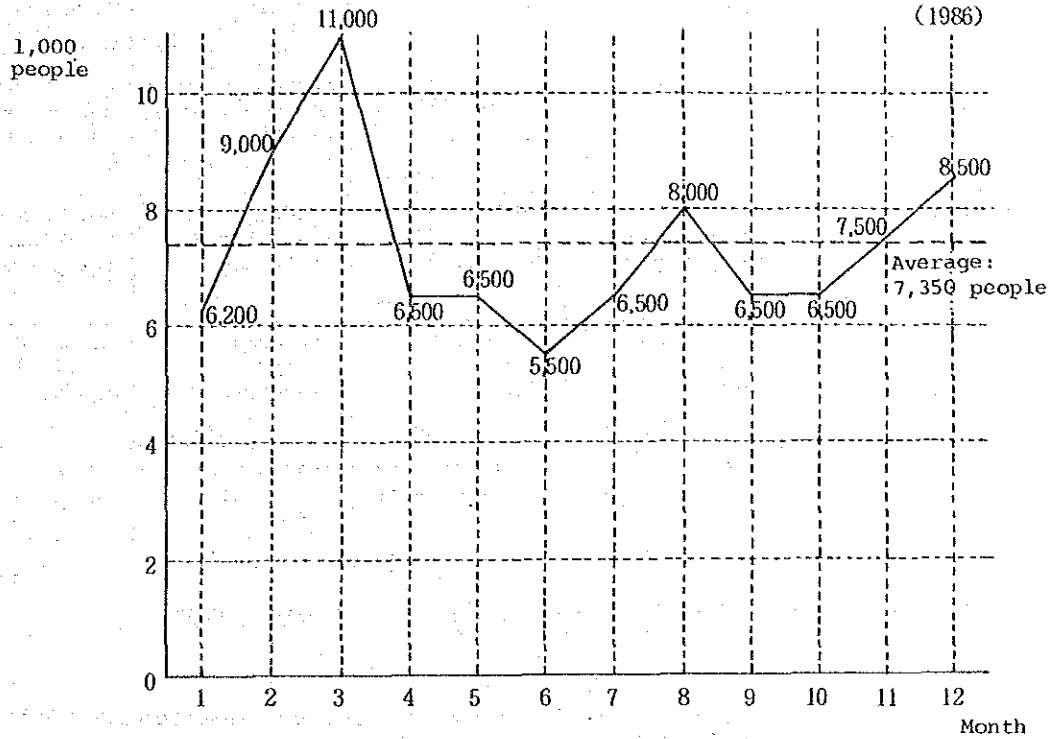
Note: Data by Japan Airlines

14. Number of the Japanese Overseas Tourists by Month



Note: Data by International Sightseeing Promotion Association

15. Number of Japanese Tourists Greece Received by Month



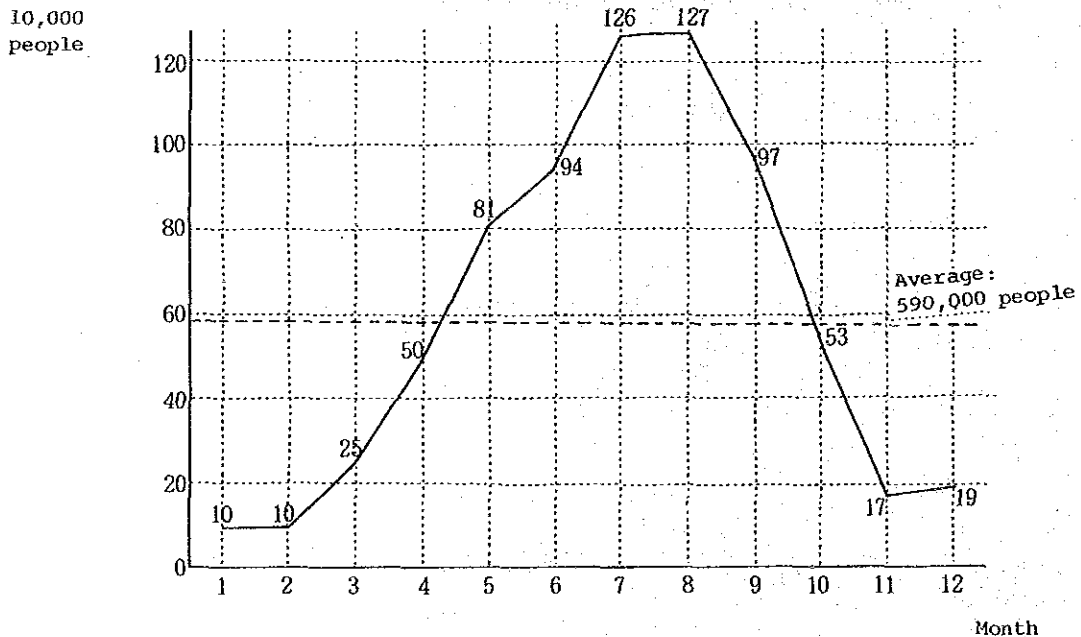
Note: Data by Greek Government Sightseeing Bureau

16. Travelling Season which the Japanese Women Desire

	18 - 25 (students)	18 - 25 (female workers)	26 ~ 35	36 ~ 50	Over 51 yrs old
No. 1	Toward summer vacation 82.4%	Toward summer vacation 84.3%	Toward summer vacation 80.2%	Toward summer vacation 72.1%	Toward summer vacation 60.0%
No. 2	Around year-end and new year's vacations 72.5%	Around year-end and new year's vacations 71.6%	Around year-end and new year's vacations 68.8%	Around year-end and new year's vacations 61.5%	Around year-end and new year's vacations 58.0%
No. 3	Around the end of school year 48.0%	Golden weeks (late April and early May) 57.8%	Golden weeks (late April and early May) 50.0%	Golden weeks (late April and early May) 55.8%	Golden weeks (late April and early May) 45.0%
No. 4	Golden weeks (late April and early May) 37.3%	Around Bon Festival (August) 16.7%	Around Bon Festival (August) 16.7%	Around Bon Festival (August) 33.7%	Around Bon Festival (August) 43.0%
No. 5	Around Bon Festival (August) 6.7%	Around the end of school year 11.8%	Around the end of school year 11.5%	Around the end of school year 12.5%	Around the end of school year 10.0%

Note: Data by Japan Maritime Affairs Public Relations Association

17. Number of Foreign Tourists Greece Received by Month (1985)



Note: Data by Greek Government Sightseeing Bureau

I Aegean Sea Cruise に関するヒヤリング

~~03~~ APR '88

- Oneday cruise に乗船し、日本人乗客からのヒヤリングを行った。
- 日本人は当日22人（家族も含む）
  - 日本在住 8人
  - ヨーロッパ在住 9人 (London koln Dusseldorf Amsterdam)
  - 中東在住 5人

One-day cruiseについて

1) 問題点

- 食事のサービスが悪い（ランチトレイによる給食で、内容も非常に粗末）
  - どこかの島でゆっくりSea Foodの料理を食べると思った。
  - 衛生状態が良くない — うす汚い、席が不十分
- 滞在が短かすぎて土地のふん囲気を感じられない
- 船に乗っている時間ばかり長く、目的地での時間がとれない
  - おみやげを買ったらもう時間がない — 買えない
  - 日本人には船は珍らしくない（退屈）
- 港の町の景観は別として、途中の景色ももう一つ魅力に欠ける
  - 伊豆半島と余り変わらない

2) 改善案

- 何かactivitiesが必要（スキューバダイビング、ウィンドサーフィン等）
- 「エーゲ海で泳ごう」ツアーは一寸面白そう
- 片道を航空機、又はスピードボートで途中の移動の時間を短かくし、滞在時間を長くとってもらいたい
- もう少し、船内でゆったりとできるよう席を多くとること

3) もう一度 One day cruiseをしてみたいか

- もう沢山

4) その他

- とにかくOrganizeが悪い



## ギリシャ全体について

### 1) 問題点

- 遺跡に何の説明もなく、分かりにくい  
ガイドがいないと分からない
- 例えばアクロポリスの入口、出札係が一人、改札が一人で沢山の観光客をさばききれない。待つ時間ばかり長い。待つ場所も全くなく危険  
(片方は“がけ”しかも手摺もない)
- ガイドのストライキには腹が立つ。長期間準備して来る観光客に対してもっと考慮すべき
- 国立博物館の説明も不十分、歴史や文明史との関係が分からない
- 町全体に清潔感に欠ける
- 客引きが不愉快
- 外人価格をやめるよう指導してほしい
- 空港でのホテル案内が不親切、第一印象が悪い
- ホテルは金額の割にレベルが低い

### 2) 改善案

- 上記の改善
- 日本語のパンフレットを用意してほしい
- 所持金の申告、タクシーのナンバー制限等は日本において知らせること(旅行者にとって不便となることが余り知られていない——良いことばかり書かれている)
- おみやげ、買物は必ずしも安い必要はない、質が問題 その辺が分かっていない。
- もう少し、アトラクションがほしい

### 3) 良かったこと

- 値段が安い 特に食事の値段が安い
- 食事がおいしい(旅慣れた人)
- 太陽が明るくてうれしかった
- 治安が思ったより良い、女性にも安全

## II キリシャにおける上下水の環境

Ministry of Environment, Planning and Public Worksにおいてヒヤリングを行った。

(Director MR John Vournas)

MR. Tanayotidis NIKOLAS Chemical and Sanitary Engineer

Mrs Spala, DEMETRA, Biologist and Pharmaciaian

### 1. 上水

A. キリシャにおける上水の水資源は、以下の2種である。

#### 1) Surface Water

Athens, Larisa, Gramaの3都市では河川から取水を行っている。

2) その他の都市においては地下水によっている。

地下水は地盤が石灰岩であるためカルシウムは多いが水質としてはよい。

#### B. 処理基準

1) キリシャはECに加盟以来、EC基準を要求されている。(塩分750ppm以下)

現在の所、工業施設も少なく水質も、もともと良いためこの基準をクリアしている(EC域内でも実際にクリアしている国は多くない)。

2) 漏水率もアテネでは20-22%程度であるため今の所は問題はない。

3) 問題が起こるとすれば、今後工業化及び都市化が進み水源の汚染及び送水中の汚染に伴うものであろうと想像している。

#### C. 現在の問題点

1) 水処理技術が必ずしも十分とは言えない

a. 施設によるものとしては、施設のメンテナンス、運転に関する原因

b. 人為的な原因としては、操作員の未熟さ及び知識の不足が原因(塩素の混入に関する知識が欠けていると思われる)

2) 送水施設の保守が十分でないため、夜間の減圧時に汚染された水が逆流入して行く可能性も部分的にはあると考えられる。

特に島によっては地震のため送水管が破壊され70%も漏水してしまう所があり、  
夜間給水は停止せざるを得ない所がある。その結果汚水が逆に流入して上水の汚  
染が起きている。

問題は水そのものより送水管にある。しかしアテネ、テッサロニキ等大陸部では  
問題はない。

#### D. 今後の改善案

- 1) 処理施設の近代化、及び保守管理の向上
- 2) 処理施設操作員の訓練と教育
- 3) 送水施設の改善

## 2. 下 水

現在、ギリシャでは本土及び、島の部分を含めて処理を行っている所はない。

アテネにおいても未処理のままサロニキ湾（ピレウス沖）の海中に放流中である。

現在アテネにおいては下水処理施設を建設中で1989年中には第1期工事が完成し、

800-180PPmにまで処理を行う予定になっている。更にその後第2期工事が行われ

（完成年は未定）25PPmまで処理を行った後サロニキ湾の深度70mの所で放流する  
ことになっている。

### Ⅲ 観光インフラとしての交通

04/APR/88

Ministry of Transport においてヒヤリングを行った

MR. Stratos PAPODIMITRIOU

Advisor to the Minister

観光の足として M. O. T. が担当するプロジェクトの内 1988 会計年度に実施を予定されているプロジェクトは以下のとおりである。

1. ハイウェイの建設 (入札中) Route 1 他及び主要国道の reconstruction
  2. 鉄道の近代化
    - a) 通信網施設
    - b) 信号機
    - c) その他の改良
  3. 橋の建設 (Rion と Antipion 間の橋は、国際入札になる)
  4. アテネの地下鉄 (現在 1 km 程の建設が完了)
  5. スパルタの国際空港建設
- ・ 道路に関しては 1996 年のアテネのオリンピックまでに周辺部の道路網の充実が必要とされる。
  - ・ 鉄道車輛に関しては新型車輛を投入する (主として西独から輸入) ことにしている。
  - ・ 島々への航空路は Olympic Aviation が運行しており滑走路の改良及び水上機の導入も検討されている。(Olympic Aviation: MR Rigos, Tel. 98 20 598, 98 92 860)
  - ・ 既存空港の改良や新設については Fédération of Civil Aviation (YPA, Tel 89 44 243) に問合わせることができる。
  - ・ 自動車の車検制度は 1983 年以来導入され、自家用車は 2 年、バス・タクシーは 6 ヶ月毎に車検にパスしなければならないとなっている。

---

・ バス料金、1 回 30 ドラクマ、午前 1 時 - 5 時は 50 ドラクマ

午前 5 時 - 8 時は無料。(トロリーバスも同様)

・ タクシー料金 初料金 25 ドラクマ 約 60 メートル毎に 2 ドラクマずつ上る。

最低料金は 170 ドラクマ

#### IV ホテルの等級分けについて

05/APR/88

Greek Hoteliers Association の会長 MR Gerassimos L. PHOKAS (Hotel Electra のマネージャー) より標記の件につきヒヤリングを行った。

ホテルの等級 L (AA), A, B, C, D, E, については1987年10月23日に制定された。1988年4月23日にはこれを改定し、星の数として表示することになっている。

現在の等級分けでは

- |                        |        |
|------------------------|--------|
| a) Classical Hotel     | AA-C   |
| b) Guesthouse          | AA-B   |
| c) Existing old hotels | D, E   |
| d) Hotel Appartment    | A-B, C |

となっており、

- o Public Spaceの広さ
- o Quality of Hall
- o 施設の種類と広さと質
- o 客室の大きさ、質、設備
- o レセプションの施設

等により評価され分類されている。

今後建設されるホテルはC以上とする事が要求されD, Eのホテルは改善が要求されている。

今後の分類の評価では設計図面の段階からMinistry of Environment, Planning and Public Works及びGNTOの指導により検査が行われ、その竣工時の検定に合格しなければ規程の星の数は与えられない。

又、更に毎年立入検査があり星の数が決定される。

評価についてはGNTO, SECTION A 4 (MRS, Elisabeth HADJINICOLAU) が担当している。

## V 旅行代理店における調査

06/APR/88

アテネを訪れる日本人旅行者に関して以下のヒヤリング調査を行った。

### 1. Hellenic Tours (JTB 日本部 松宮康生氏)

現在のアテネに来る日本人旅行者は数の上で減っている。

このまま行けば日本人旅行者はジリ貧となるのではないかと心配している。ガイドの日本語の問題・遺跡の公開展示の方法、又、旅行者の扱い等数多くの問題があり、特に新婚旅行のように口こみで伝わる部分においてのマイナス面は大きいと思われる。

特に1日クルーズは大変悪評で2度とギリシャに来たいという思いをなくするに充分と思われるが、本社の販売政策のどのかね合いがあるため難しい問題もある。

1日クルーズにおいては3つの島巡りを2つにして島における滞在時間をもっと長くとりとかもう少し高額でもよいから日本人向けにもっとムードのある船旅を用意すべきであるという声もありその声に耳を傾ける必要を感じている。

又、アテネを訪れる日本人はアテネの他にも目的地を持っているため、ギリシャの壺や皿等かさばって重たいお土産は買いたがらない。お金を使わせるためには、ギリシャ側が更に研究を重ねる必要がある。

現在までの所はギリシャの観光宣伝活動は日本においては殆んど雑誌、テレビ等日本のマスコミによって行われており、ギリシャ側が熱心にやっているとは思えない。(スペインはその逆の好例である)本当に日本人を増やすつもりであればやはりギリシャ側も本腰を入れてかからねばならないのではないか。

### 2. ARVANTIS (Director MR Yannis LAGIOS)

日本人を受け入れていて感じることは

- 1) ギリシャ側のオーガナイズの悪い事
- 2) 微笑の少ないこと
- 3) サービス精神の不足

等があげられる。

特に全体の旅程の短い日本人にとって上記の(1)は時間の浪費と感じられると理解している。又、空港の駐車場も拡張されたにも拘らず観光バスの停車する場所はなく駐車場も空港職員の車でいっぱいになってしまうという現実では日本人の旅行者を満足させることはできない。

上記(2)については地中海人種特有の性格であるため仕方がない面もある。人間が悪くはない事は理解してほしいとの事であった。

アトラクションの乏しいこの国（ギリシャ）において、到着した旅行者を一度ギリシャ人の結婚式に連れて行ったことがある。その時はもの珍らしさと、ギリシャ人のホスピタリティに触れることができ日本人旅行者も一緒に参列し好評だったことがある。

エーゲ海のクルーズについては日本人向けの質の高いクルーズを用意するべきと考えている。又船旅を能率的に行うため、片道をバスにするシアーもある。但し、スピードボートを片道利用する事は、法律上できない。

付属資料 10. ギリシャへの航空便一覧

ACCESS TO GREECE ( FROM TOKYO TO ATHENS )

Monday

<u>TYO/AMS</u>		<u>AMS/ATH</u>	
2130/0700	KL868	+1105/1520	KL561
<u>TYO/BRU</u>		<u>BRU/ATH</u>	
----		N.A.	
<u>TYO/CPH</u>		<u>CPH/ATH</u>	
2130/0645	SK980	+1130/1555	SK777
<u>TYO/FRA</u>		<u>FRA/ATH</u>	
2100/0645		+0915/1300	LH1082
<u>TYO/HEL</u>		<u>HEL/ATH</u>	
N.A.		----	
<u>TYO/LON</u>		<u>LON/ATH</u>	
2130/0605	BA006	+1130/1655	OA260
<u>TYO/PAR</u>		<u>PAR/ATH</u>	
2100/0645	AF271	+0915/1425	AF600
<u>TYO/ROM</u>		<u>ROM/ATH</u>	
1800/0730	AZ787	+1200/1455	AZ480
<u>TYO/ZRH</u>		<u>ZRH/ATH</u>	
N.A.		----	
<u>TYO/ATH</u>			
N.A.			
<u>TYO/BKK</u>		<u>BKK/ATH</u>	
1200/1630	TG 641	2150/0405	TG974
<u>TYO/SIN</u>		<u>SIN/ATH</u>	
1110/1830	SQ007	2245/0635	SQ028



ACCESS TO GREECE ( FROM TOKYO TO ATHENS )

Tuesday

TYO/AMS

1250/0655 JL717

AMS/ATH

1305/1720 KL557

TYO/BRU

N. A.

BRU/ATH

----

TYO/CPH

N. A.

CPH/ATH

----

TYO/FRA

2045/0745 LH703

FRA/ATH

0915/1425 LH1082

TYO/HEL

N. A.

HEL/ATH

----

TYO/LON

2130/0605 BA006

LON/ATH

1130/1655 OA260

TYO/PAR

2100/0645 AF271

PAR/ATH

0915/1425 AF600

TYO/ROM

N. A.

ROM/ATH

----

TYO/ZRH

N. A.

ZRH/ATH

----

TYO/ATH

N. A.

TYO/BKK

1050/1650 TG643

BKK/ATH

0330/1200 OA346

TYO/SIN

1100/1830 SQ007

SIN/ATH

2245/0635 SQ028

ACCESS TO GREECE ( FROM TOKYO TO ATHENS )

Wednesday

TYO/AMS

1525/0625 KE703

AMS/ATH

1105/1520 KL561

TYO/BRU

----

BRU/ATH

N.A.

TYO/CPH

1215//655 SK984

CPH/ATH

1130/1555 SK777

TYO/FRA

2045/0745 LH703

FRA/ATH

0915/1300 LH1082

TYO/HEL

1000/1555 AY915

HEL/ATH

1745/2330 AY774

TYO/LON

2230/0650 JL423

LON/ATH

1130/1655 OA260

TYO/PAR

2230/1005 JL423

PAR/ATH

1325/1725 OA202

TYO/ROM

----

ROM/ATH

N.A.

TYO/ZRH

2030/0635 SR165

ZRH/ATH

1210/1550 SR302

TYO/ATH

1730/0955 JL473

TYO/BKK

----

BKK/ATH

N.A.

TYO/SIN

1315/1855 SQ005

SIN/ATH

2230/0520 SQ015

ACCESS TO GREECE ( FROM TOKYO TO ATHENS )

Thursday

TYO/AMS

2130/0700 KL868

AMS/ATH

1105/1520 KL561

TYO/BRU

N.A.

BRU/ATH

----

TYO/CPH

2205/0610 SK988

CPH/ATH

1130/1555 SK777

TYO/FRA

2130/-720 LH702

FRA/ATH

0915/1300 LH1082

TYO/HEL

N.A.

HEL/ATH

----

TYO/LON

2130/0605 BA006

LON/ATH

1140/1710 BA560

TYO/PAR

2100/0645 AF271

PAR/ATH

0915/1425 AF600

TYO/ROM

N.A.

ROM/ATH

----

TYO/ZRH

N.A.

ZRH/ATH

----

TYO/ATH

N.A.

TYO/BKK

----

BKK/ATH

N.A.

TYO/SIN

1100/1830 SQ007

SIN/ATH

2230/0355 SQ032

ACCESS TO GREECE ( FROM TOKYO TO ATHENS )

Friday

TYO/AMS

N.A.

AMS/ATH

----

TYO/BRU

N.A.

BRU/ATH

----

TYO/CPH

N.A.

CPH/ATH

----

TYO/FRA

2045/0745 LH703

FRA/ATH

0915/1300 LH1082

TYO/HEL

N.A.

HEL/ATH

----

TYO/LON

1205/1625 BA008

LON/ATH

2055/0230 BA562

TYO/PAR

2100/0645 AF275

PAR/ATH

0915/1425 AF600

TYO/ROM

1800/0740 AZ781

ROM/ATH

1200/1455 AZ480

TYO/ZRH

2030/0635 SR165

ZRH/ATH

1210/1555 SR302

TYO/ATH

N.A.

TYO/BKK

1630/2040 TG741

BKK/ATH

2359/0615 TG966

TYO/SIN

----

SIN/ATH

N.A.

ACCESS TO GREECE ( FROM TOKYO TO ATHENS )

Saturday

TYO/AMS

2130/0700 KL868

AMS/ATH

1200/1625 OA152

TYO/BRU

-----

BRU/ATH

N.A.

TYO/CPH

2130/0645 SK980

CPH/ATH

1130/1555 SK777

TYO/FRA

2055/0645 LH705

FRA/ATH

0915/1300 LH1082

TYO/HEL

N.A.

HEL/ATH

-----

TYO/LON

2130/0605 BA006

LON/ATH

1130/1655 OA260

TYO/PAR

2100/0605 AF273

PAR/ATH

0915/1425 AF600

TYO/ROM

N.A.

ROM/ATH

-----

TYO/ZRH

N.A.

ZRH/ATH

-----

TYO/ATH

N.A.

TYO/BKK

-----

BKK/ATH

N.A.

TYO/SIN

-----

SIN/ATH

N.A.

ACCESS TO GREECE ( FROM TOKYO TO ATHENS )

Sunday

TYO/AMS

1250/0825 JL717

AMS/ATH

1105/1520 KL561

TYO/BRU

N.A.

BRU/ATH

-----

TYO/CPH

2130/0645 SK980

CPH/ATH

1130/1555 sk777

TYO/FRA

2045/0750 LH701

FRA/ATH

0915/1300 LH1082

TYO/HEL

1000/1550 AY915

HEL/ATH

1745/2330 AY773

TYO/LON

2130/0605 BA006

LON/ATH

1130/1655 OA260

TYO/PAR

1145/1925 AF269

PAR/ATH

0915/1325 AF600

TYO/ROM

-----

ROM/ATH

N.A.

TYO/ZRH

2030/0635 SR163

ZRH/ATH

1210/1555 SR302

TYO/ATH

N.A.

TYO/BKK

-----

BKK/ATH

N.A.

TYO/SIN

1100/1830 SQ007

SIN/ATH

2230/0420 QF015

付属資料 11. 収集資料リスト

区 分	資 料 名	作成年月日 / 機関	概 要
A 一般	1. Statistical Yearbook of Greece 1985 2. Concise Statistical Yearbook 1985/86 3. Monthly Statistical Bulletin 4. " " 5. Price-list of Statistical Publications	1986 National Statistic Service of Greece 1987 National Statistic Service of Greece 1988 Jan. National Statistic Service of Greece 1988 Feb. National Statistic Service of Greece 1987 National Statistic Service of Greece	ギリシャの国家統計年次報告書 ギリシャの国家統計年次報告概要小冊子 ギリシャの国家統計の月刊報告書 統計報告書の出版リストと価格
B 政策	1. The Five Year Economic and Social Development Plan, 1983-87 Summary 2. Establishment of Interministerial Council to Coordinate Government 3. Organization Chart Ministry of Environment, Planning and Public Works	The center of Planning and Economic Research	国家経済社会開発5ヶ年計画の概要 (1) 計画プロセスのガイドライン (2) 各セクターの開発計画 (3) 各地区の開発計画 構成各省庁の担当問題のリスト
C 社会経済	1. Greece : Key Economic Indicators October 12, 1987 2. The State Budget 1986, 1987 3. GDP and GNP 1984-1987 4. Development of GDP and National Income infactor costs. (1970 constant price) National Expenditure and GDP (1970 constant price) 5. GDP and Gross National Income (at factor cost) (1970 constant price) 6. 経済統計 1985 - 1987 7. Current Economical Development and Prospect in Greece 8. Annual Industrial Survey For the Year 1980 9. Greece Today Leaflet 10. Greece's Weekly 4 Jan - 4 April, 1988	October 15, 1987 Greek Report (From 15 Ministries) Greek Report Greek Report Apr. 1988 Greece's Weekly 1987 Nov. Greece's Weekly 1988 Bank of Greece 1988 Ministry of National Economy 1986 National Statistical Service of Greece 1987 National Statistical Service of Greece Greece's Weekly	1986年10月との比較 (1) National Account (2) Demand and Output (3) 価格と給与 (4) 通貨と Credit Aggregate (5) 雇用と失業 (6) Balance of Payment and Foreign Debt. 1986, 1987の国家予算 (1) Regular Budget (2) Public Investment Budget (3) Agricultural Products Special Account (4) State Budget (5) Budget Deficit (ギリシャ語) (ギリシャ語) 産業統計 中小工業、大工業、20人以上の企業及び雇用の統計 統計の人口、雇用、給与、工業生産、国内収支、消費者物価の変動年率、Public finance、輸出等々のデータ ギリシャにおける経済週刊誌、最新の経済データを発表している。

区 分	資 料 名	作成年月日 / 機関	概 要
E 交通, インフラ	1. 航空		
	(1) アテネ乗入航空会社リスト	1987 B.A.R	アテネに乗入れている Air Lines(47社)のリスト
	(2) Airlineのタイムスケジュール - Olympic Airways - Lufthansa - Air France - British Airways - Swissair - KLM - Sabena - SAS - Alitalia - Thai International - Singapore Airlines - Qantas		Timetable
	2. 陸上		
	(1) Public Transport	1988 GNT0	空港、駅等、主要な場所に至るバス、タクシーの構程
	(2) Bus Timetable From Athens	GNT0	アテネから各地方部へのバスの運行表及び料金
	(3) Public Transport Map Athens-Piraeus Greater Athens Area	1987 Athens Area Urban Transport Organization	アテネ都市圏におけるメトロ、バス、トロリーバス路線の地図
	(4) Railway Schedule Domestic Fares	GNT0 (LON)	国内の鉄道時刻表と料金
	(5) Railway Map	1986 Quail Map. Co.	ギリシャの鉄道路線図 ピレウスからの距離が表示されている
	(6) レンタカー事務所リスト	GNT0	
	3. 海上		
	(1) Boat timetable from Piraeus to Saronic Gulf Islands	1988 GNT0	エジナ、ボロス、ヒドラへの定期船の運行表
	(2) Boat timetable from Piraeus to Aegean Islands	1988 GNT0	エーゲ海の島への定期船の運行表
	(3) Boat schedule departure from Rafina	1987 GNT0	ミコノス周辺の島めぐりの定期船の運行表
(4) Steamship schedule			
F 環境	1. 上水 Ministry of Physical Planning and Environment におけるヒヤリング	1988 JICA	ギリシャにおける上水施設及び環境基準についてのヒヤリング結果
	2. 下水 同上	1988 JICA	ギリシャにおける下水施設及び環境基準についてのヒヤリング結果
G 観光	1. 一般情報		
	(1) Tourism in Greece 1987	1987 Kolofolias Co.	ギリシャ観光全体についてのインフォメーション
	(2) Tourism in Greece 1988, Business	1988 Kolofolias Co.	ギリシャ観光及び投資についてのインフォメーション
	(3) Geek Travel Pages 143	1987	
	(4) " " Pages 149	1988	
	2. 統計		
(1) Statistics for Tourism 1981	1983 National Statistics Service of Greece		



区 分	資 料 名	作成年月日/機関	概 要	
C 社会経済	11. Foreign Companies in Greece 1987	Business & Finance Intelligence Unit + Midland Bank PLC.	外国企業がギリシャにおいて経済活動を行うためのガイドブック/ダイレクトリー	
	12. Legislative Decree 2687/1953	1987 Hellenic Industrial Development Bank S.A.	海外投資に対する誘致と保証策	
	13. Industrial Areas Laws 4458/1965 and 742/1977 (As amended and supplemented)	1987 Hellenic Industrial Development Bank S.A.	環境保全のための工業立地に関する法律	
	14. Investment Incentives Law 1262/1982	1987 Hellenic Industrial Development Bank S.A.	海外からの投資に対する優遇策、利子の低減、税の軽減等が盛り込まれている	
	15. Investment Prospects	1987 Hellenic Industrial Development Bank		
	16. Information for Investment	Hellenic Industrial Development Bank S.A.	海外投資に対する情報	
	(1) Investing in Greece	Ministry of the National Economy	(1) 税制 (2) 償却 (3) 給与体系 (4) 優遇策 (5) 資金 (6) 産業立地 (7) 地中海総合開発計画 (8) 不動産貸借等へのインフォメーション	
	(2) Investment in Greece	1988 Ministry of the National Economy	海外からの投資優遇策 (1) Incentives (2) Protection and terms of movement for foreign capital (3) Basic information about the economic environment	
	(3) Law No. 1665 "Leasing Contracts"	The president of the Hellenic Republic	ギリシャにおける不動産貸借のための契約に関する法律	
	(4) Greek Law 1652/1986	Government Gazette No. 167/A/30-10-1986	短期の不動産貸借に関する法律	
	(5) Presidential Decree No. 207	1987 Government Gazette No. 95	EC域内における資本の移動に関する政令	
	(6) Proposed Venture Capital Law		合弁会社設立に関する法律	
	(7) Presidential Decree 170/1986 Capital movement between Greece and the other members states of EEC	1986 Hellenic Industrial Development Bank S.A.		
	17. Employment - Number of Establishment and average employment - Wage & salaries - Export & and Import - Labour force and unemployment - Vocational training	1987 Geek Report, Ministry of Labour GNTO		
	D 地域開発計画	1. 地域開発計画 (1) コリント (2) アルゴス (3) オリンピア (4) デルフィ	1984 Ministry of Physical Planning, Housing and Environment	各県の地域開発計画 マスタープラン
		2. Housing Development Project	1985 Ministry of Physical Planning, Housing and Environment	International year of shelterのための住宅開発5ヶ年計画のサマリー 開発プログラムが提示されているもの

区 分	資 料 名	作成年月日 / 機関	概 要	
G 観光	(2) Tourist Statistics 1982 and 1983	1985 National Statistics Service of Greece	Arrival 数、made、逗留日本人の滞在、一人あたりの消費額  1985-87 Tourism による収入 GDP におけるシェア、外貨収入におけるシェア、1956-86 の旅行者	
	(3) Tourist Statistics 1984 and 1985	1985 National Statistics Service of Greece		
	(4) Tourist Data	1988 GNTO Greek Report		
	(5) Tourism Economy	1988 Ministry of National Economy		
	(6) コンタクトミッションの質問により GNTO より出された統計データ	1988 GNTO		
	(7) コンタクトミッションの報告書に 集められた統計データ			
	(8) Evolution of hotel capacity of Greece 1960-1979	GNTO		
	(9) Guide 1977-1987, 88	1988 GNTO		官制別の人数、養成所における カリキュラム、養成所への入学案内
	(10) List of Police Station	1987 GNTO		
	(11) Banks and Foreign Exchange	1988 GNTO		
	(12) Greece Hotels 1987	1987 The Hellenic Chamber of Hotels		Chamber of Hotel 委の Hotel の 詳細データ
	(13) 外人観光客特設統計	1985 GNTO		(ギリシア特)
	3. The 4th International Tourism Exhibition "Philoxenia 88" に 際し提示された Press Conference かこの Note	1988 Ministry of National Economy		Ministry of National Economy & Secretary General of The Hellenic Tourism Organization により発表された プレスコンファレンスからのメモ
	4. 観光案内			
	(1) Greece 88	1988 GNTO		
	(2) Michelin, Greece	1987 Michelin		
	(3) Greece	Baedeker		
	(4) Greece 1988	1987 Fodor		
	(5) Let's Go Greece 1988	1988 Harvard Student Agencies Inc.		
	(6) ギリシャ	Editions K. Gouvousis	日本語ガイドブック	
(7) Greece	1986 Ekdotike Athinon S.A.			
(8) Greece	APA Productions			
(9) アテネ	Berlitz	現地で販売されている日本語ガイドブック。		
(10) Athens, The City and its Museum	1979 Ekdotike Athinon S.A.	アテネ及び国立考古学博物館の案内		
(11) This Week in Athens	1988 GNTO	アテネのイベントのインフォメーション、 町角で売っている		
(12) The Greek Islands	1987 Ekdotike Athinon S.A.			
(13) Mykonos, Delos	1986 Michalis Toumbis Ed.			
(14) Santorini	1987 Michalis Toumbis Ed.			
(15) Camping in Greece 87-88				
(16) National Museum	1984 Ekdotike Athinon S.A.			

区 分	資 料 名	作成年月日 / 機関	概 要
G 観光	(17) The Acropolis (18) Ancient Corinth (19) Mycenae - Epidaurus (20) Olympia (21) Delphi (22) ツアーパンフレット (日本) (23) " " (英国)	1985 Ekdotike Athinon S.A. 1984 Ekdotike Athinon S.A. 1985 Ekdotike Athinon S.A. 1982 Ekdotike Athinon S.A. 1985 Ekdotike Athinon S.A.	日本で発売されているギリシャへの パッケージツアーカタログ 英国において発売されているパッケージツアー カタログ
H 地図	1. City Map (1) Greater Athens (2) Map of Athens (3) Greece Athina Atiki (4) Athens 2. Road Map (1) Michelin Greece 1:700,000 (2) Greece 1:1,000,000 (3) Greece 1:650,000 (4) Peloponnesos 1:300,000 (5) Athens - Delphi 1:250,000 (6) Creta 1:200,000 (7) Cyclades 1:150,000 (8) Hellas (9) Big Road Atlas Europe 3. Topographical Map (1) Greater Athens 1:100,000	1987/88 S. Kapranidis & N. Phothis John Glavas 1987 GNTO 1987 JAL Michelin Hallwag Festathiadis Festathiadis Festathiadis Festathiadis Festathiadis S. Kapranidis & N. Phothis Co. 1987 Automobil Association of UK 1963 National Statistical Service of Greece	アテネ大都會圏の地図 ギリシャの道路地図 地形図 アテネ近郊
I 出版	1. Catalogue List (1) List of Available Publications (2) 情報誌	Centre of Planning and Economic Research	出版カタログ (ギリシャ語)
J Mesc.			







JICA